

Compaqコンソール スイッチ ボックス

ユーザ ガイド

製品番号 141555-193

2002年10月（第3版）

COMPAQ

© 2002 Compaq Information Technologies Group, L.P.
© 2002コンパックコンピュータ株式会社

CompaqおよびCompaqロゴは、Compaq Information Technologies Group, L.P.の商標です。

本書に掲載されている会社名、製品名は、それぞれ各社の商標または登録商標です。

本書の内容につきましては万全を期しておりますが、本書中の技術的あるいは校正上の誤り、省略に対して、責任を負いかねますのでご了承ください。本書の内容は、そのままの状態を提供されるもので、いかなる保証も含みません。本書の内容は、将来予告なしに変更されることがあります。コンパック製品に対する保証については、当該製品に付属の限定保証書に記載されています。本書のいかなる内容も、新たな保証を追加するものではありません。

本製品は、日本国内で使用するための仕様になっており、日本国外で 사용되는場合は、仕様の変更を必要とすることがあります。

本書に掲載されている製品情報には、日本国内で販売されていないものも含まれている場合があります。

Compaqコンソール スイッチ ボックス ユーザ ガイド

2002年10月（第3版）
製品番号 141555-193

目次

このガイドについて

安全に使用していただくために	ix
装置の記号	ix
ラックに関する注意	xi
本文中の記号	xi
表記上の規則	xii
コンパックのWebサイト	xii

第1章

はじめに

製品概要	1-1
機能	1-2
コンフィギュレーション	1-4
入手可能なモデル	1-7

第2章

ハードウェアのインストール

インストールのチェックリスト	2-1
キットの内容	2-1
必要な工具	2-2

ハードウェアのインストール	2-2
2ポート サイド マウント0Uインストール	2-2
サイド マウント0Uインストール	2-5
ラックの背面側へのインストール	2-9
標準1Uインストール	2-11
インストールの完了	2-15

第3章

ケーブル接続

ケーブル情報	3-1
ケーブル ロック メカニズム	3-2
ケーブルの接続	3-3
スイッチ ボックスの起動動作	3-6
コンピュータの起動動作	3-6
コンソール スイッチ ボックスの設定	3-6
自動再起動	3-7
スイッチのリセット	3-7
電源が入った状態での接続	3-7
その他のコンフィギュレーション	3-7
カスケード接続コンフィギュレーション	3-8
システムに電源が入った状態でカスケード接続を行う	3-9
デュアル コンソール コンフィギュレーション	3-10

第4章

OSDの使用

オン スクリーン ディスプレイ	4-1
他の言語	4-1
機能	4-1

ナビゲーション	4-2
メニューの概要	4-4
OSDの[Main]画面	4-5
[Setup]画面	4-7
[Commands]画面	4-8
[Version]画面	4-10
[Reset]コマンド	4-11
[Devices]画面	4-11
[Device Modify]画面	4-13
[Names]画面	4-15
[Menu]画面	4-17
[Scan]画面	4-18
[Flag]画面	4-22
[Security]画面	4-24
[Broadcast]画面	4-27
セカンダリ コンソール スイッチのOSDへのアクセス	4-30
コンピュータ間の切り替え	4-31
ソフトスイッチの実行	4-32
画面キャプチャの実行	4-32

第5章

簡易OSDの使用

OSDの起動	5-1
画面キャプチャの印刷	5-1
簡易OSDの[Selection]画面	5-2
プライマリ コンソール スイッチの簡易OSDを開く、または簡易OSDの[Selection]画面に アクセスする	5-2
簡易OSDのステータス ポートの記号	5-3
簡易OSDの[Advanced Menus]画面	5-3
簡易OSDの[Advanced Menus]を開く	5-3
簡易OSDを終了する	5-4
コンピュータの選択	5-4
コンピュータを切り替える	5-5
コンピュータに固有の名前を割り当てる	5-5
メニュー属性の変更	5-7
画面表示への設定の影響	5-8

ステータス フラグ属性の変更	5-10
フラグ表示の値および設定の影響	5-11
コンピュータのスキャン	5-12
スイッチをスキャン モードにする	5-12
スキャン モードをキャンセルする	5-12
カスタム スキャン パターンを設定する	5-12
スキャン リストからコンピュータを削除する	5-13
サーバ アクセスのセキュリティ設定	5-14
画面およびキーボードをロックする	5-15
スクリーン セーバをオフにする	5-17
コンソールをロックせずにモニタをブランクにする	5-17
バージョン情報の表示	5-18
ハードウェア設定の保存	5-19
マウスおよびキーボードのリセット	5-19
特定のデバイス タイプの割り当て	5-20
カスケード接続システムの切り替え	5-21

付録A

規定に関するご注意

規定準拠識別番号	A-1
各国別勧告	A-2
Federal Communications Commission Notice	A-2
Canadian Notice (Avis Canadien)	A-4
European Union Notice	A-5
Taiwanese Notice	A-5

付録B

静電気対策

アースの方法	B-2
--------------	-----

付録C

電源コードについて

一般的な条件	C-1
国別必要条件	C-2

付録D

仕様

付録E

トラブルシューティング

付録F

ファームウェアのアップデート

索引

このガイドについて

このガイドでは、Compaqコンソール スイッチ ボックスのインストール手順、操作、トラブルシューティングおよび将来必要となるアップグレードの手順について説明します。

安全に使用していただくために

同梱の『安全に使用していただくために』をよく読んでから、製品のインストールを開始してください。

装置の記号

安全上の注意が必要な装置の各部には、以下の記号が表示されています。



警告: 以下の記号と組み合わせて使用され、危険があることを示します。警告事項に従わないと、けがをする場合があります。詳しくは、ご使用のマニュアルを参照してください。



装置に高電圧が発生する回路があることや、装置の表面または内部部品に触れると感電の危険があることを示します。修理はすべて、資格のある担当者に依頼してください。

警告: 感電を防止するために、カバーを開けないようにしてください。メンテナンス、アップグレード、および修理はすべて、資格のある担当者に依頼してください。



警告: 装置の表面または内部部品に触れると感電の危険があることを示します。カバー内には、ユーザや使用現場の担当者が修理できる部品は入っていません。カバーは、絶対に開けないでください。

警告: 感電を防止するために、カバーを開けないようにしてください。



これらの記号が貼付されたRJ-45ソケットはネットワーク インタフェース接続を示します。

警告: 感電、火災または装置の損傷を防止するために、電話または電気通信用のコネクタをこのソケットに接続しないようにしてください。



装置の表面または内部部品の温度が非常に高くなる可能性があることを示します。この表面に手を触れるとやけどをする場合があります。

警告: 表面が熱くなっているため、やけどをしないように、システムの内部部品が十分に冷めてから手を触れてください。



電源やシステムにこれらの記号が付いている場合、装置の電源が複数あることを示します。

警告: 感電しないように、電源コードをすべて抜き取ってシステムの電源を完全に切ってください。



重量kg
重量lb

製品や機械にこの記号が付いている場合、1人で安全に取り扱うことができる重量を超えていることを示します。

警告: けがや装置の損傷を防ぐために、ご使用の地域で定められた重量のある装置の安全な取り扱いに関する規定に従ってください。

ラックに関する注意



警告: けがや装置の損傷を防止するために、次の点に注意してください。

- ラックの水平脚を床まで延ばしてください。
- ラックの全重量が水平脚にかかるようにしてください。
- 1つのラックだけを設置する場合は、ラックに固定脚を取り付けてください。
- 複数のラックを設置する場合は、ラックを連結してください。
- コンポーネントは一度に1つずつ引き出してください。一度に複数のコンポーネントを引き出すと、ラックが不安定になる場合があります。

本文中の記号

本文中の以下の記号の意味を示します。



警告: その指示に従わないと、人体への傷害や生命の危険を引き起こす恐れがあるという警告事項を表します。



注意: その指示に従わないと、装置の損傷やデータの消失を引き起こす恐れがある注意事項を表します。

重要: 詳しい説明や具体的な手順を示します。

注: 解説、補足または役に立つ情報を示します。

表記上の規則

このガイドでは、以下の表記規則を採用しています。

- イタリック体は、変数を示します。変数には、本文中のさまざまなシステム出力、コマンドライン、コマンドパラメータに関する情報が含まれます。
- **太字**は、強調すべき画面上のインタフェース コンポーネント（ウィンドウのタイトル、メニュー名およびメニュー オプション、ボタン名およびアイコン名など）と、キーボードのキーを示します。
- Monospace フォントは、コマンドライン、コード例、画面表示、エラー メッセージ、およびユーザ入力を示します。
- URLは、Arial フォントで表記します。

コンパックのWebサイト

コンパックのWebサイトでは、コンパック製品に関する情報および最新のドライバやフラッシュ ROM に関する情報を提供しています。コンパックのWebサイト（<http://www.compaq.co.jp/>または<http://www.compaq.com/>）にアクセスするには、インターネットにログオンする必要があります。

はじめに

製品概要

Compaq コンソール スイッチ ボックスを使用すると、大規模コンピュータ ネットワークを、1 台のキーボード、ビデオ、およびマウスを使用して制御することができます。1つのビデオ画面上で、さまざまなオペレーティング システムを実行中のコンピュータを最大64台選択することができます。

4ポートおよび8ポート コンソール スイッチ ボックスは、接続されている各コンピュータにアクセスするためのメニューを持つ、オン スクリーン ディスプレイ (OSD) インタフェースを使用しています。各コンピュータは、名前または番号で識別できるため、ユーザはサーバ名を表示し、選択することが可能です。

注: 2ポート コンソール スイッチ ボックスでは、簡易OSDを使用しています。

代表的なCompaq コンソール スイッチ ボックスのコンフィギュレーションは、キーボード/ビデオ/マウス コンフィギュレーションとも呼ばれ、コンソール、スイッチ ユニット、および接続されたコンピュータにより構成されます。ユーザは、シングル ユーザ システム、マルチユーザ システム、またはカスケード接続システムのいずれかを選択できます。カスケード接続を使用してプライマリ コンソール スイッチ ボックスに別のコンソール スイッチ ボックスを接続すると、アクセスできるコンピュータの数は4台または8台から最大64台まで増えます。これにより、ユーザはネットワーク システムのニーズの変化に合わせてシステムを変更できるようになります。

8ポート コンソール スイッチ ユニットには、デュアル コンソール機能を提供するものもあります。これにより2箇所以上から、または2人以上のユーザが、コンソール スイッチ ボックス コンフィギュレーションを制御できます。

コンピュータを切り替えるには、キーボードでコマンドを入力するだけです。選択されたコンピュータは、キーボードで入力された文字を受信し、モニタにビデオ出力を表示します。マウスを使用して、選択されたコンピュータのグラフィック インタフェースを使用することもできます。

Compaq コンソール スイッチ ボックス ファミリの製品には2、4、および8ポートのバージョンがあり、大規模から小規模まで、さまざまなシステムに合ったコンフィギュレーションで使用できます。どのバージョンも、スペースをとらない1Uハイト（4.34センチ）の空間に収められます。

この章では、コンソール スイッチ ボックスの特徴および機能の概要、ならびにサンプル コンフィギュレーションを示します。

機能

コンソール スイッチ ボックスは、さまざまなコンフィギュレーションで、2～64台のサーバを接続するために使用してください。

コンソール スイッチ ボックスには次の機能があります。

- **オン スクリーン ディスプレイ (OSD)** - 電源投入時テスト データやコンフィギュレーション メニューなどのシステム関連情報をモニタに表示します。
- **プログラマブル スキャン** - システム内の任意のまたはすべてのコンピュータを順にスキャンして、システムの性能を評価します。プログラマブル スキャンにより、含めるべきコンピュータと接続の期間を決定することができます。
- **コンフィギュレーションNVRAM** - キーボードから入力されたコマンドを使用して、コンフィギュレーション情報の設定を容易にします。不揮発性RAM (NVRAM) は、ユニットの電源が切られた場合でも、情報が変更されるまで既存のコンフィギュレーションを保存します。
- **リセット スイッチ** - キーボードまたはマウスの通信が途切れた場合、システムへの電源供給を中断せずにユニットをリセットします。
- **パスワード保護** - セキュリティのためのパスワード オプションを提供することにより、権限のないユーザの使用を防ぎます。

- **ファームウェア アップデート** - スイッチ ボックスのアプリケーション コードは FLASH ROMの中に存在するため、アップデートを迅速かつ簡単に行うことができます。ポート通信は自動的に設定され、接続されているコンピュータから直接ダウンロードすることが可能になります。
- **他言語選択** - Compaq コンソール スイッチ ソフトウェア ユーティリティ CD で使用可能な他言語を提供します (2ポート スイッチでは使用できません)。詳細については、この CD を参照してください。
- **オプションのスイッチ ボックス コネクタ キットのサポート** - このキットを使用すると、キーボード、モニタ、マウス、電源コードの4ポートまたは8ポート コンソール スイッチ ボックスに前面からアクセスできます。

コンフィギュレーション

組織に固有のニーズを満足するように、コンソール スイッチ ボックスをさまざまな方法で構成することができます。複数のコンソール スイッチ ボックスの構成について詳しくは、第3章を参照してください。

- 1台のコンソール スイッチ ボックスを使用して、4台または8台のサーバを接続します。このコンフィギュレーションでは、キーボード、ビデオ、およびマウスはそれぞれのケーブルによりユニットに直接接続されています。コンソール スイッチ ボックスは、同じラックまたは隣接するラック内のサーバに接続することができます。

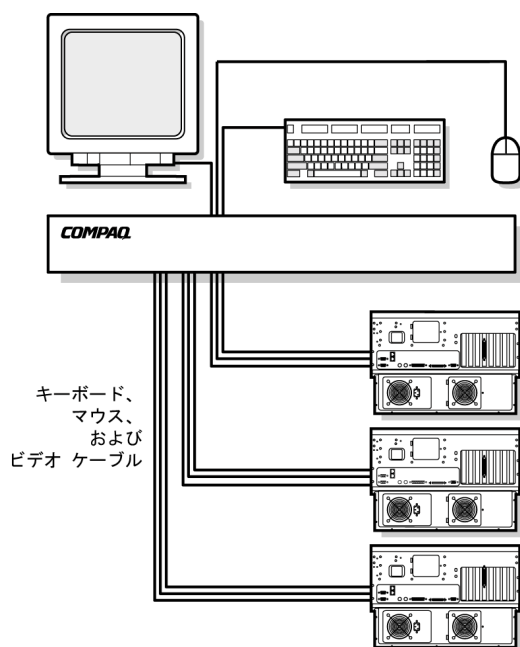


図1-1: 1台の4ポート ユニット

- 複数のコンソール スイッチ ボックスのユニットをカスケード接続して、最大64台のサーバを接続することができます。このコンフィギュレーションを図1-2に示します。セカンダリ ユニットからのデバイス ポートは、最初のユニット、つまりプライマリ ユニットのコンピュータ ポートの1つに接続されています。プライマリ ユニットから、複数台のコンソール スイッチ ボックスのユニットをカスケード接続することができます。

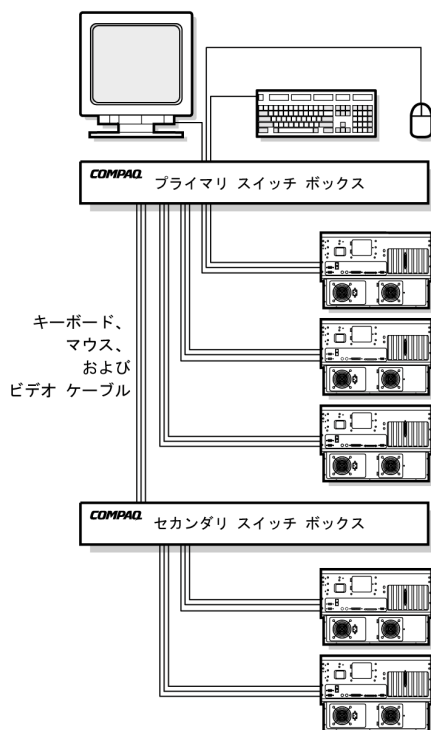


図1-2: カスケード接続コンフィギュレーション

- デュアル コンソール8ポート モデルでは、2台のコンソールをセットアップすることができます。これにより、2箇所以上から、または2人以上のユーザが、コンソール スイッチ システムを制御することが可能になります。

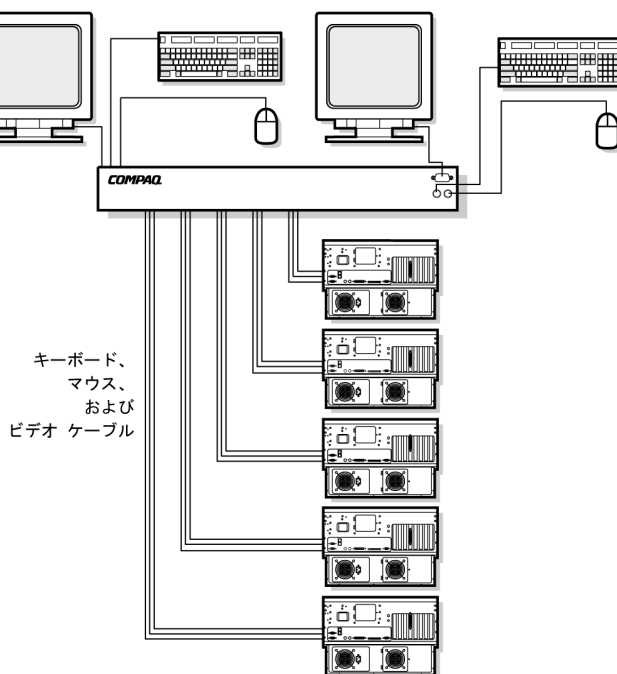


図1-3: デュアル コンソール コンフィギュレーション

入手可能なモデル

コンソール スイッチ ボックスには、2ポート、4ポート、および8ポートの各バージョンがあります。

表1-1: モデルの比較表

	2ポート	4ポート	8ポート	デュアル コンソール 8ポート
コンピュータ ポートの数	2	4	8	8
コンソール (モニタ、 キーボード、 マウス)の数	1	1	1	2
カスケード 接続による コンピュー タの台数	N/A	32	64	64
スイッチ接 続モードの 制御	なし	なし	なし	あり
電源	110/220V AC	110/220V AC	110/220V AC	110/220V AC

ハードウェアのインストール

この章では、コンソール スイッチ ボックスのハードウェアのインストール手順について説明します。

インストールのチェックリスト

コンソール スイッチ ボックスをインストールする前に、次のリストを参照して示されているすべてのコンポーネントが揃っていることを確認してください。

キットの内容

- Compaqコンソール スイッチ ボックス キット
- メイン コンソール スイッチ
- 電源コード
- レールおよび金具
- 『Compaqコンソール スイッチ ボックス ユーザ ガイド』
- シリアル ケーブル
- 保証書

次を準備してください。

- キーボード、ビデオ、およびマウス用の相互接続ケーブル（2ポート ラック オプション キットには付属しています）
- 各ユーザ コンソール用のキーボード、ビデオ、およびマウス

必要な工具

プラス ドライバを用意してください。

ハードウェアのインストール

2ポート サイド マウント0Uインストール

注: 2ポート ユニットの、次に示すサイド マウント手順のみを使用してインストールしてください。

2ポート ユニットのラックの側面に設置するには、以下の手順に従ってください。

1. 両側でネジを2本ずつ使用して、サイド マウント ブラケットをコンソール スイッチ ボックスに取り付けます。

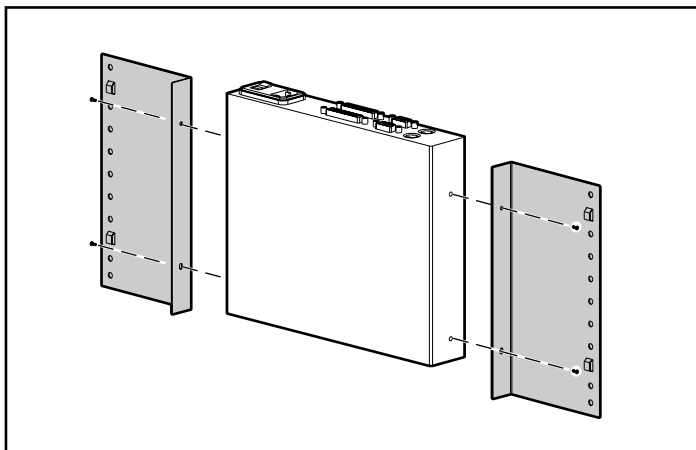


図2-1: サイド マウンティング ブラケットを取り付ける

2. サイド マウンティング ブラケットのタブを、ラックの両側にある同じ高さのUの位置にスライドさせて差し込みます。

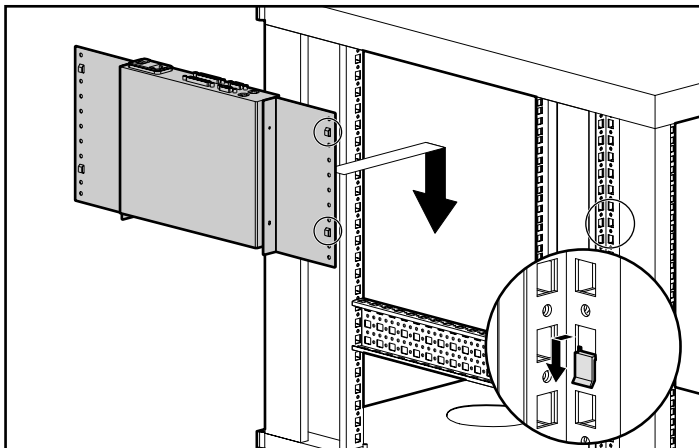


図2-2: コンソール スイッチ ボックスをラックの側面に装着する

3. 両側でネジを1本ずつ使用して、コンソール スイッチ ボックスをラック フレームに固定します。

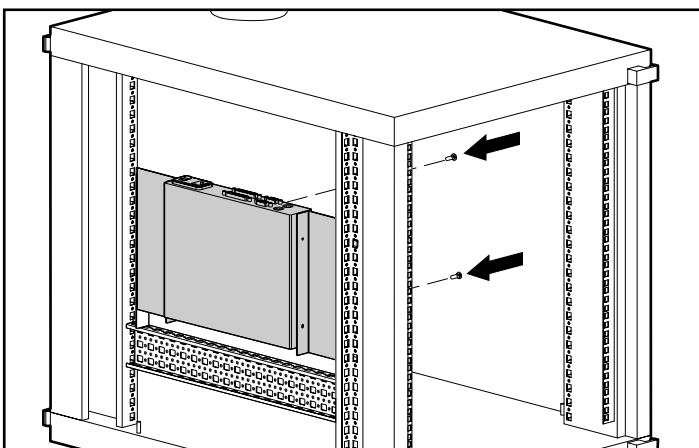


図2-3: コンソール スイッチ ボックスをラックに固定する

2ポート キーボード/ビデオ/マウス ケーブルの接続

2ポート キーボード/ビデオ/マウス ケーブルを接続するには、図2-4を参照してください。

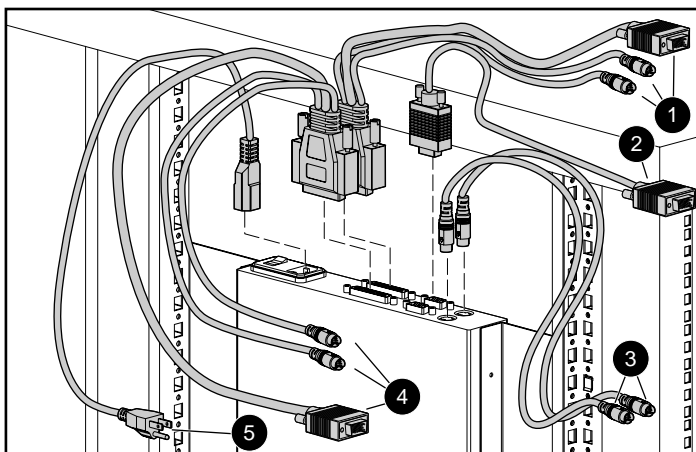


図2-4: 2ポート キーボード/ビデオ/マウス ケーブルの接続

番号	説明
1	キーボード、モニタ、およびマウスの各コネクタをコンピュータ1に接続
2	モニタのコネクタをスイッチ ボックスのコンソールに接続
3	キーボードおよびマウスのコネクタをコンソール スイッチ ボックスに接続
4	キーボード、モニタ、およびマウスの各コネクタをコンピュータ2に接続
5	電源コード

サイド マウント0Uインストール

以下の手順に従って、4ポート、8ポート、またはデュアル コンソール8ポート ユニートをラックの側面にインストールしてください。

タイプA

コンソール スイッチ ボックスをラックの側面に設置するには、以下の手順に従ってください。

1. 両側でネジを2本ずつ使用して、サイド マウント ブラケットをコンソール スイッチ ボックスに取り付けます。

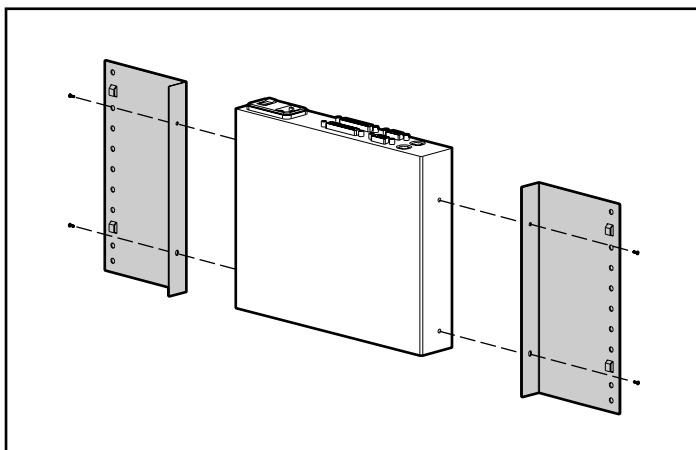


図2-5: サイド マウンティング ブラケットを取り付ける

2. サイド マウンティング ブラケットのタブを、ラックの両側の同じ高さのUの位置にスライドさせて差し込みます。

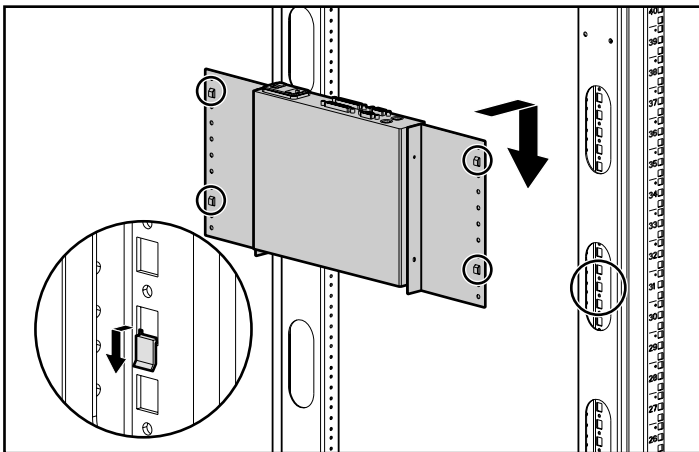


図2-6: コンソール スイッチ ボックスをラックの側面に装着する

3. 両側でネジを2本ずつ使用して、コンソール スイッチ ボックスをラック フレームに固定します。

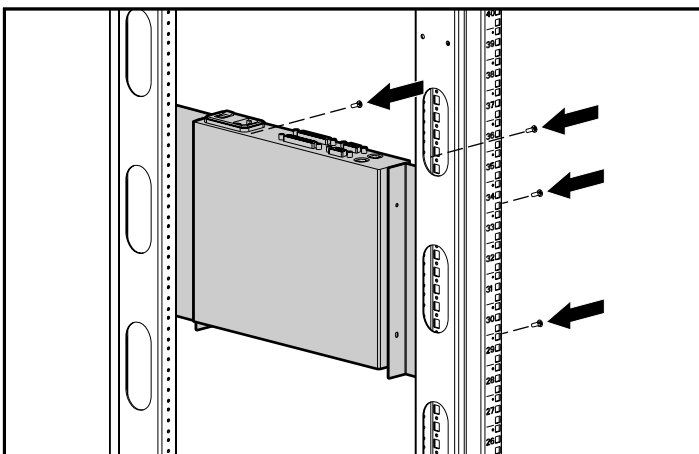


図2-7: コンソール スイッチ ボックスをラックに固定する

タイプB

1. 両側でネジを2本ずつ使用して、サイド マウンティング ブラケットをコンソール スイッチ ボックスに取り付けます。
2. サイド マウンティング ブラケットのタブを、ラックの両側の同じ高さのUの位置にスライドさせて差し込みます。

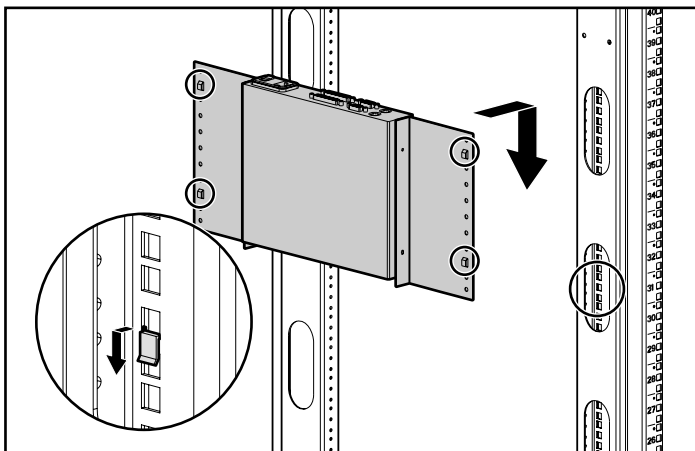


図2-8: コンソール スイッチ ボックスをラックの側面に装着する

3. ラック フレームにケージ ナットを4つ挿入します。ケージ ナットの位置は、サイド マウンティング ブラケットの穴の位置に合わせてください。

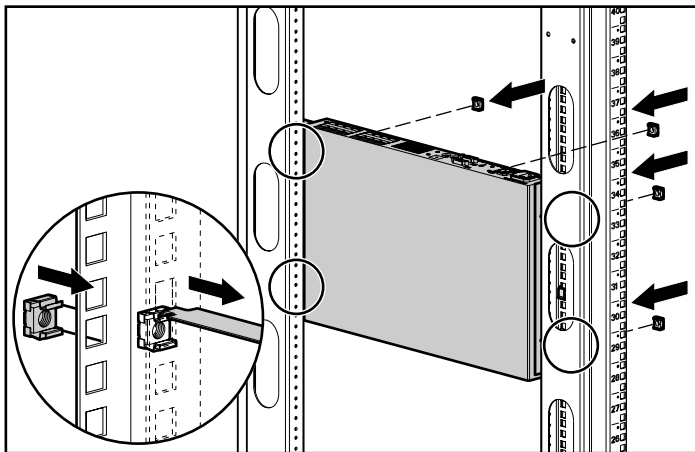


図2-9: ケージ ナットを挿入する

4. 両側でネジを2本ずつ使用して、コンソール スイッチ ボックスをラック フレームに固定します。

ラックの背面側へのインストール

重要: コンソール スイッチ ボックスを、1Uキーボード シェルフ キットなど1Uのコンポーネントと一緒にインストールする場合、追加のラック スペースは必要ありません(0Uインストールが可能です)。

コンソール スイッチ ボックスをラックの背面側にインストールするには、以下の手順に従ってください。

1. 両側でネジを2本ずつ使用して、スライド レール ブラケットをコンソール スイッチ ボックスに取り付けます。

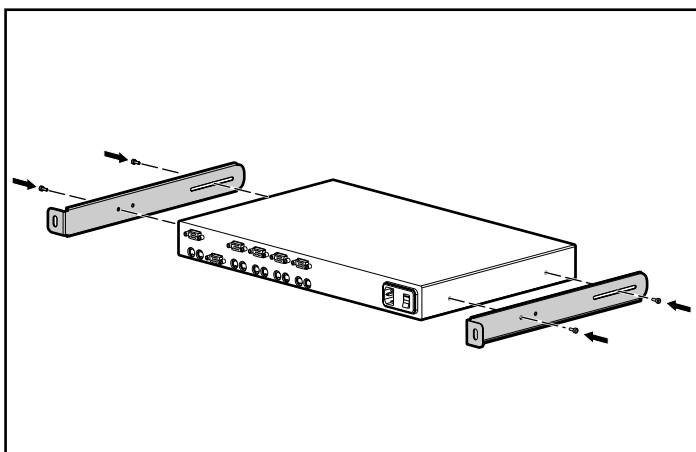


図2-10: スライド レール ブラケットを取り付ける

2. ラック背面のレールの裏側にケージ ナットが取り付けられていることを確認します。
3. スライド レール ブラケットを取り付けたコンソール スイッチ ボックスを、ラックに取り付け済みのレール マウンティング ブラケットの中にスライドさせて押し込みます。

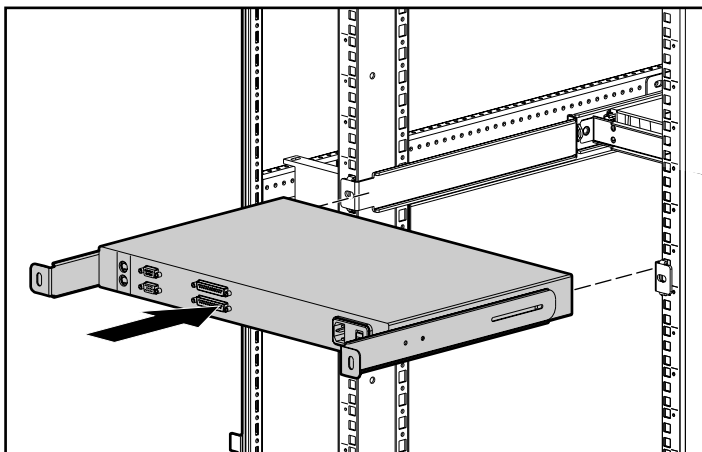


図2-11: コンソール スイッチ ボックスをラックの中にスライドさせて押し込む

4. 両側でネジを1本ずつ使用して、スライド レール ブラケットをラックの背面に固定します。

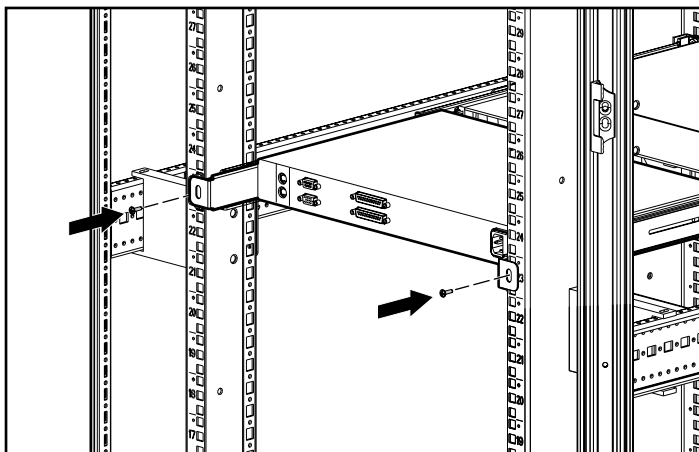


図2-12: スライド レール ブラケットをラックに固定する

標準1Uインストール

コンソール スイッチ ボックスをインストールするには、以下の手順に従ってください。

1. 両側でネジを2本ずつ使用して、スライド レール ブラケットをコンソール スイッチ ボックスに取り付けます。
2. コンポーネントに付属のテンプレートを使用して、マウンティング ハードウェア部品の設置位置に印を付けます。
 - a. テンプレートの上部にあるタブ（のマークがついている部分）を背面側に押して、マウンティング レール上の適切な穴に引っ掛けます。
 - b. テンプレートの左右に刻まれている穴のパターンがマウンティング レールの穴のパターンと一致するようにします。
 - c. 新しく設置するコンポーネントのすぐ下のコンポーネントの一番上から測定します。ラック フレームの正面側と背面側にテンプレートを当てて、マウンティング レールと背面側のケージ ナットの取り付け位置に印を付けます。

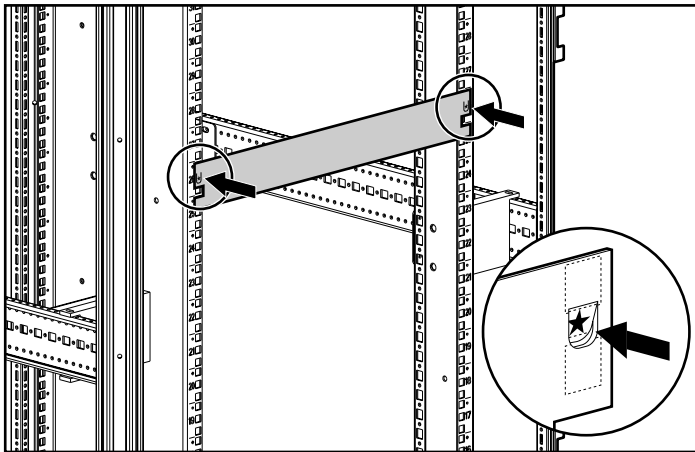


図2-13: ラック テンプレートを使用して測定する

3. ラックの背面側で、テンプレートを使用して印を付けた穴に2つのケージ ナットを取り付けます。

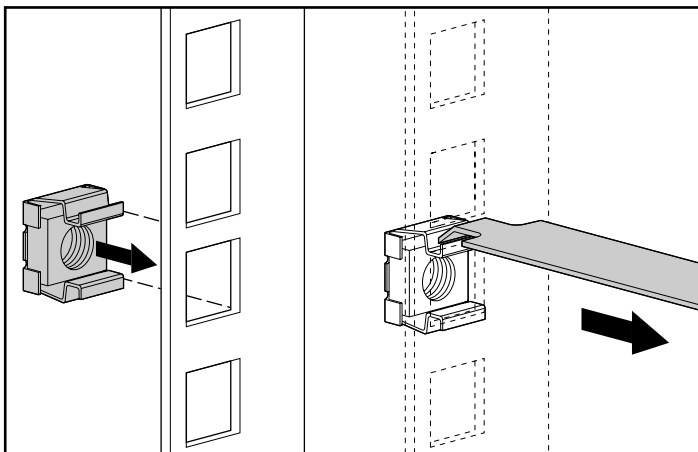


図2-14: ケージ ナットを取り付ける

4. ウィング ナットを緩く取り付け(1)、調節可能なレール マウンティング ブラケットを希望する長さまで引き出します(2)。
5. ウィング ナットを少しだけ締めて、設置中、調節可能なレールが動かないようにします。

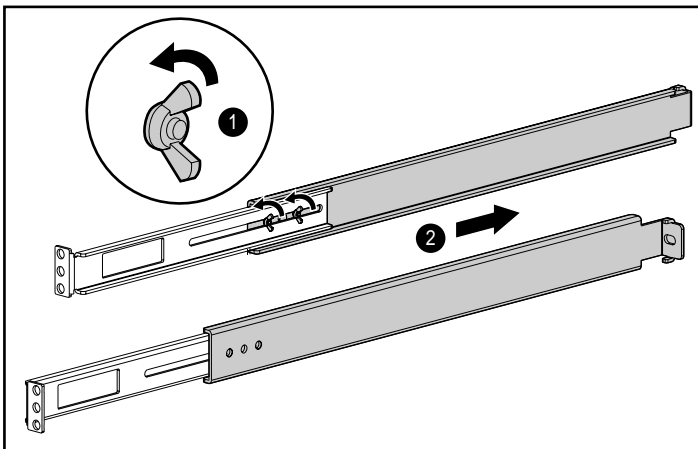


図2-15: 調節可能なレール

6. 調節可能なレールをラックに押し込み、ラック背面の該当する穴にタブを引っ掛け、ラック正面のネジ穴の位置を揃えます。
7. 取り付け済みのケー ジ ナットごとにネジを1本使用して、調節可能なレールの後部を固定します。

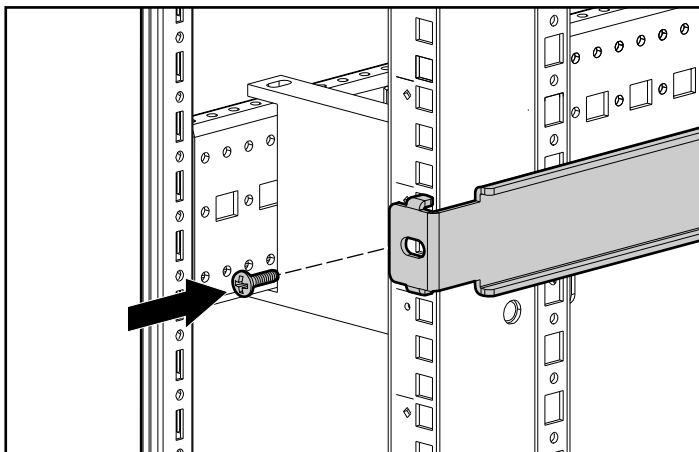


図2-16: 調節可能なレールを固定する

8. レールごとにネジを2本使用して、調節可能なレールの前部をラックに固定します。

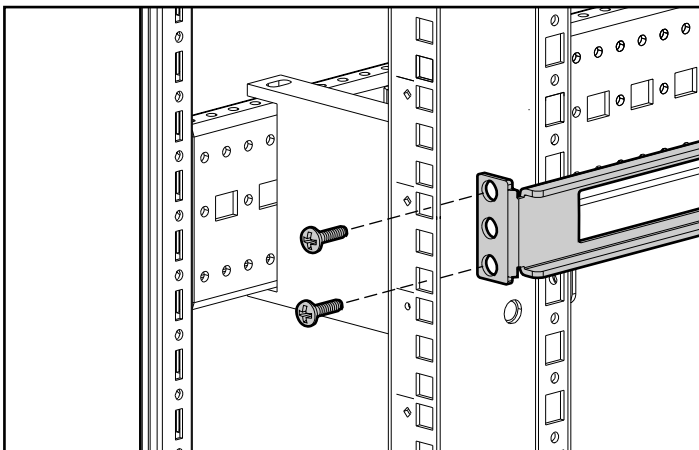


図2-17: 調節可能なレールを固定する

9. コンソール スイッチ ボックスを調節可能なレールにスライドさせて押し込み、ラックの両側でネジを1本ずつ使用して、ラックの背面に固定します。

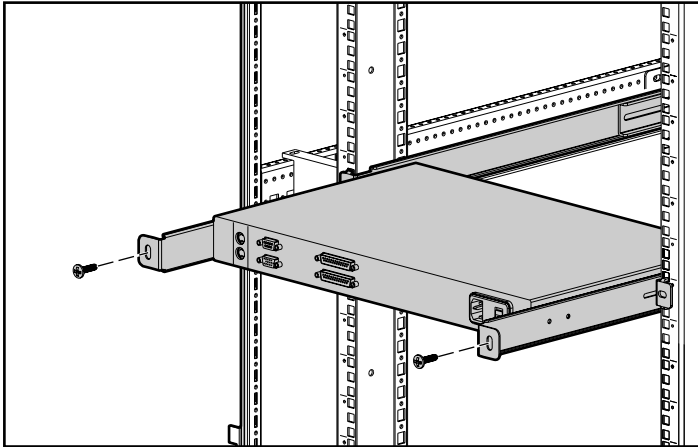


図2-18: コンソール スイッチ ボックスをラックに固定する

10. フロント カバー パネルの位置を合わせ、ラックの両側でネジを1本ずつ使用して、ラックの正面に固定します。

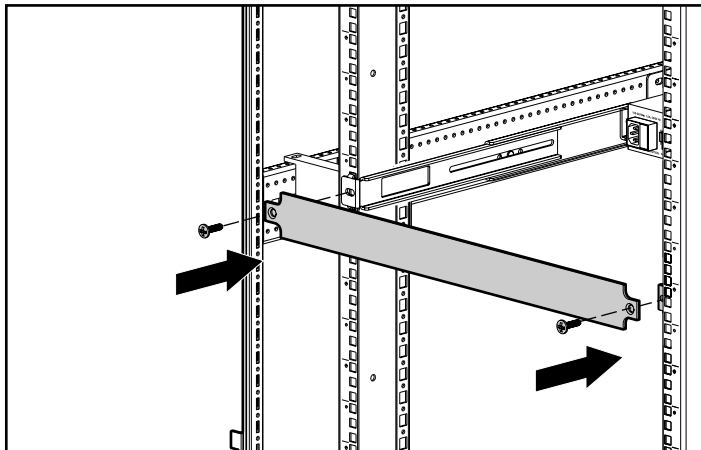


図2-19: フロント カバー パネルの位置を合わせる

注: オプションでスイッチ ボックス コネクタ キットを使用できます。このキットを使用すると、キーボード、モニター、マウス、電源コードの4ポートまたは8ポート スイッチに前面からアクセスできます。必要ならば、フロント カバー パネルの代わりにこのキットを使用してください。

インストールの完了

この章で説明したいずれかの方法を使用してコンソール スイッチ ボックスをラックにインストールした後は、「3 ケーブル接続」に進んでください。

ケーブル接続

ケーブル情報

ケーブルの長さは、キーボードおよびマウスのデータ タイミングだけでなく、ビデオの品質にも影響します。ケーブルの最大長は、使用するコンピュータおよび周辺装置によりある程度決定されます。最大長では満足な結果が得られないシステムもあります。

ケーブル ロック メカニズム

4ポート、8ポート、およびデュアル コンソール8ポート ユニットの、キーボードとマウス ケーブルのオプションには、確実な接続を提供するためのケーブル ロック メカニズムが付いています。これらのケーブルを切り離す場合は、正しい手順を実行しなければなりません。



注意: 正しい手順に従って切り離しを行わないと、ケーブルまたはユニットが損傷する場合があります。

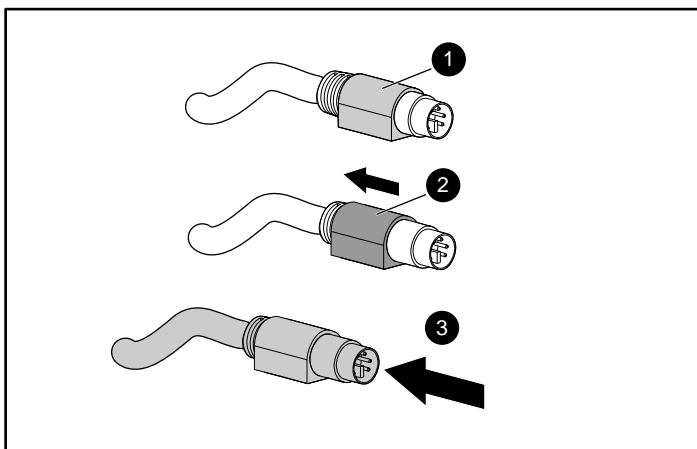


図3-1: キーボードおよびマウス ケーブルの切り離し

キーボードまたはマウス ケーブルを正しく切り離すには、以下の手順に従ってください。

1. カバーを持ちます (1)。
2. カバーを後ろにずらして、ケーブル ロック メカニズムを外します (2)。
3. ケーブルを取り外します (3)。

ケーブルを挿入する場合は、適切なコネクタに差し込んでください。ケーブル ロック メカニズムは自動的にケーブルを所定の位置にロックします。

ケーブルは、次の順序でスイッチ ボックスに接続してください。

1. マウス
2. モニタ
3. キーボード

このケーブル接続の順序は、後でシステムに新しいデバイスをインストールする場合に特に重要です。マウスおよびキーボードは、システムが稼動中にスイッチ ボックスに接続できます。新しいデバイスを接続すると、コンソール スイッチ ボックスはデバイスを認識して、現在選択されているコンピュータ用に設定します。これにより、障害の発生したデバイスを、システムを再起動せずに交換することが可能になります。

スイッチ ボックス システムに変更を加える場合は、ハードウェア コンフィギュレーションの設定を必ず保存しなければなりません。保存していない場合は、電源の消失または切断時にこの設定は失われます。スイッチへの、キーボードおよびマウスの通信を再確立するには、各コンピュータを再起動しなければならない場合があります。ハードウェア設定を保存するには、[Commands] 画面で[Snapshot]をクリックします。OSDの使用法の詳細については、第4章を参照してください。

ケーブルの接続



警告: 感電や装置の損傷を防止するために、次の注意を守ってください。

- 電源コードのアース付きプラグは、無効にしないでください。アース付きプラグは安全上重要な機能です。
 - 電源コードは、いつでも簡単に手が届くところにあるアース付きコンセントに接続してください。
 - 装置の電源を切る場合は、電源コードをコンセントまたは装置から抜き取ってください。
-

ケーブルを接続するには、以下の手順に従ってください。

1. キーボード、ビデオ、およびマウス ケーブルをコンソール スイッチ ボックスの該当するコネクタに接続します。キーボードおよびマウスのケーブルはすべて6ピン ミニDIN PS/2型で、ビデオ ケーブルはすべて15ピンVGA/SVGA型であることに注意してください（これらのコネクタは、各コンソール スイッチ ボックスの背面左側にあり、デュアル コンソール8ポート コンソール スイッチには前面に追加のコネクタがあります）。



図3-2: 2ポート コネクタ

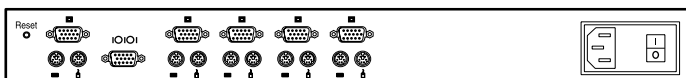


図3-3: 4ポート コネクタ

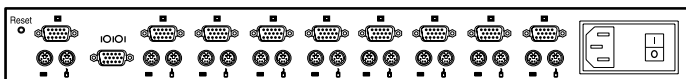


図3-4: 8ポート コネクタ

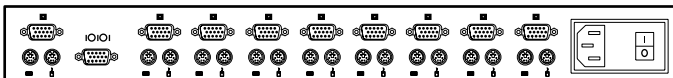
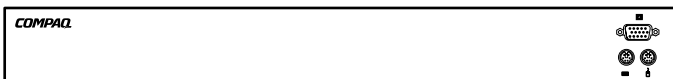


図3-5: デュアル コンソール8ポートACコネクタ

2. ポート1に接続するコンピュータを決定します。
 - a. 1 のラベルが付いたポートの下適切なコネクタとマウスのコネクタを接続します。
 - b. 15ピンVGAコネクタとモニタのコネクタを接続します。
 - c. 適切なコネクタとキーボードのコネクタを接続します。
 - d. ケーブルを束ねてラベルを付けて、簡単に識別できるようにします。
3. スイッチ ボックスに接続する他のすべてのコンピュータについて、手順2を繰り返します。



警告: 感電や装置の損傷を防止するために、電源コードのアース機能は無効にしないでください。この装置は、オペレータが簡単に手の届くコンセントに接続し、アースして使用するように設計されています。アース付きプラグは安全上重要な機能です。

4. 電源コードをコンソール スイッチ ボックスに接続します。

スイッチ ボックスの起動動作

サーバの起動時には、サーバのドライバがデバイスの設定をコンソール スイッチ ボックスに送るため、コンピュータの電源を入れる前にコンソール スイッチ ボックスの電源を入れることが重要です。起動中に、コンソール スイッチは次の動作を実行します。

- マウスおよびキーボードを識別して、それらをデフォルト状態にします。
- デフォルトでポート1に切り替えて、モニタ上のステータス フラグに"1"を表示します。ステータス フラグのデフォルト設定がNamesモードに変更されている場合は、ステータス フラグにはポート番号ではなくポート名が表示されます。ステータス フラグがモニタに表示されていない場合は、コンピュータが接続されていて、電源が入っていることを確認してください。

以下の手順に従って、システムに電源を入れてください。

1. コンソール スイッチ ボックスのリア パネルにある電源スイッチを押して、オンの位置にします。
2. コンピュータの電源を入れます。

コンピュータの起動動作

起動中に、コンピュータはデバイスの設定をコンソール スイッチ ボックスに送ります。スイッチ ボックスは、そのコマンドに対する標準応答を生成して、コンピュータがキーボード、モニタ、またはマウスに物理的に接続されていなくても正常に起動できるようにします。コンソール スイッチ ボックスがインストールされた後は、この設定を不揮発性RAM (NVRAM) に保存することができます。詳細については、第4章を参照してください。

コンソール スイッチ ボックスの設定

コンソール スイッチ ボックスの電源を初めて入れる際に、基本的なスイッチ動作のために設定を行う必要はありません。コンピュータに固有の名前を割り当てたり、割り当てられた名前またはポート番号でコンピュータを表示したりといった、特定の要求を満足するようにユニットを設定する方法については、第4章を参照してください。

自動再起動

停電の後、電源が回復すると、コンソール スイッチ ボックスに接続されている各サーバは、オペレータの介入なしに再起動します（そのように設定されている場合）。コンソール スイッチ ボックスは、再起動に成功したこと、およびコンピュータを切り替える準備ができたことを確認するための応答を生成します。

スイッチのリセット

キーボードやマウスが動かなくなった場合、背面パネルにあるResetボタンを押してコンソール スイッチ ボックスをリセットします。Resetボタンを押すと、コンピュータの電源を入れなおさずに、デバイスの設定を回復できます。

電源が入った状態での接続

コンソール スイッチ ボックスに電源が入った状態で、追加のコンピュータを接続することができます。新しく接続されたコンピュータに電源を投入すると、コンソール スイッチ ボックスはそのコンピュータを認識し、何もせずに新しいコンピュータに切り替えることができます。

マウスとキーボードも、システムに電源が入った状態で接続することができます。新しいデバイスを接続すると、コンソール スイッチ ボックスはそのデバイスを認識し、現在選択されているコンピュータ用に設定します。この技術により、システムを再起動せずに、障害の発生したデバイスを交換することが可能になります。

注: コンソール スイッチ ボックスに新しいコンピュータが追加された場合、または既存の接続が変更された場合は、OSDから[Snapshot]オプションを使用して、新しい設定をNVRAMに保存しなければなりません。

その他のコンフィギュレーション

他のシステムの構成方法には、カスケード接続コンフィギュレーションおよびデュアル コンソール コンフィギュレーションがあります。

カスケード接続コンフィギュレーション

カスケード接続されたシステムでは、プライマリ ユニットのポートに追加のコンソール スイッチ ボックスを接続することができます。すなわち、コンソール スイッチ ボックスをプライマリ / セカンダリ コンフィギュレーションにカスケード接続することにより、1台のプライマリ コンソール スイッチで、コンピュータおよび他のコンソール スイッチ ユニットの間を切り替えることが可能になります。カスケード接続では、セカンダリ ユニットの物理的キーボード、マウス、およびモニタを、プライマリ ユニットのコンピュータ ポートに接続します。たとえば、1台の8ポート プライマリ ユニットには、8台のセカンダリ コンソール スイッチ ユニットを接続することができます。8台のセカンダリ コンソール スイッチ ユニットのそれぞれに8台のサーバが接続されたシステムでは、1×64の集中制御が提供されます。

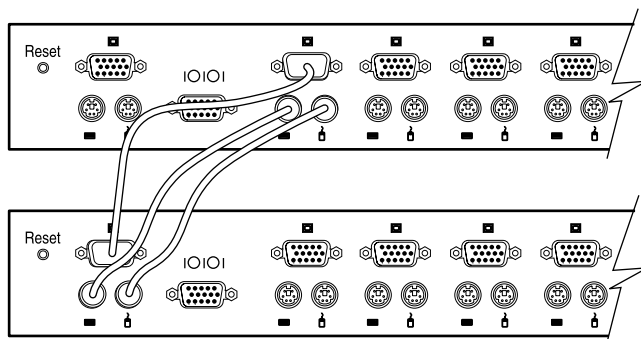


図3-6: カスケード接続コンフィギュレーション

セカンダリ ユニットをマスタ ユニットのいずれかのポートに接続する場合、第5章で説明する「特定のデバイス タイプの割り当て」の手順を実行して、この接続をプライマリ ユニットに指示する必要があります。これに伴って対応するポート番号について、モニタ タイプの代わりにセカンダリ ユニットの名称を入力します。4ポート セカンダリ ユニットには**4-Port**という名称を使用し、8ポート セカンダリ ユニットには**8-Port**という名称を使用します。

OSDにより、セカンダリ ポートをプライマリ コンソール スイッチのポートとほぼ同等に扱うことができます。各セカンダリ ユニットには、第5章の「コンピュータに固有の名前を割り当てる」の説明に従って名前を付けると便利な場合があります。

システムに電源が入った状態でカスケード接続を行う

必要な場合は、システムに電源が入った状態でセカンダリ ユニットにプライマリ ユニットの接続することができます。この技術は、システムの中断を最小限にしてあらゆる問題を分離するために使用できます。プライマリ コンソール スイッチ ボックスをセカンダリ ユニットに接続するには、最初にマウスとビデオのケーブルを接続し、次にキーボードのケーブルを接続します。プライマリ ユニットは、キーボードの接続をセカンダリ ユニットの電源投入として解釈するので、この接続順序は重要です。この時点で、プライマリ ユニットは初期化コードをセカンダリ ユニットに送信し、デバイス設定を開始させます。

カスケード接続システムの切り替えについては、第4章を参照してください。

デュアル コンソール コンフィギュレーション

デュアル コンソール コンフィギュレーションは、デュアル コンソール8ポート コンソールスイッチを使用することにより実現できます。前の説明と同じ手順で、ケーブルをユニットに接続します。次に、コンソール スイッチ前面のポートを使用して、もう1組のキーボード、ビデオ、およびマウスを接続します。接続モードの切り替えについては、第4章の「[Menu]画面」を参照してください。

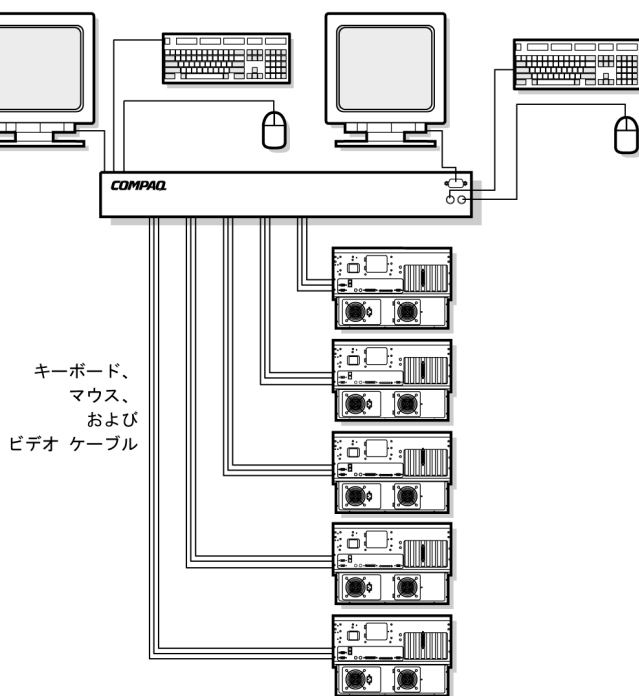


図3-7: 8ポート デュアル コンソール コンフィギュレーション

OSDの使用

オン スクリーン ディスプレイ

オン スクリーン ディスプレイ (OSD) は、4ポート、8ポート、およびデュアル コンソール8ポート ユニットに対応しています。2ポート コンソール スイッチ ボックスを使用する場合は、「5 簡易OSDの使用」を参照してください。

他の言語

Compaq コンソール スイッチ ソフトウェア ユーティリティCDには、英語以外の言語用にOSDのアップデートが収録されています。このユーティリティの使い方については、CDを参照してください。

注: 2ポート コンソール スイッチでは他言語選択は使用できません。

機能

OSDを使用して、次の基本機能を実行します。

- プライマリ コンソール スイッチにセカンダリ コンソール スイッチが接続されている場合 (カスケード接続)、デバイス タイプを割り当てます。
- コンピュータに固有の名前を割り当てます。
- デュアル コンソール8ポート コンソール スイッチを使用している場合、スイッチ接続モードを選択します。

- ハードウェア設定を保存します。
- コンソール スイッチ システムに関する情報を表示します。

その他の機能については、この章の各画面に関する項で説明します。

注: OSDは、コンピュータのオペレーティング システムとは独立して動作します。

ナビゲーション





マウスとキーボードを使用して、OSDメニューをナビゲートし、コマンドを入力することができます。ただし、コンソール スイッチ ボックスはコンピュータのオペレーティング システムとは独立して動作するため、OSDのキーボードとマウスの規則は、選択されたコンピュータを制御する際の規則とは異なる場合があります。表4-1に、OSDをナビゲートする際に使用される特別な規則を示します。

表4-1: OSDメニューをナビゲートするための規則

項目	機能
マウス	
左マウス ボタン	コマンドをアクティブにします。行項目を強調表示します。デスクトップのOSDメニューを再配置します(タイトル バーをクリック アンド ドラッグ)。
右マウス ボタン	表示画面を閉じて前の画面に戻ります。 [Main]画面からOSDを終了します。

続く

表4-1: OSDメニューをナビゲートするための規則（続き）

項目	機能
キーボード	
Print Scrn	OSDの選択画面を開きます。*
Page Up/Page Down	名前とポートのリストでページを上下に移動します。
Enter	[Main]画面のスイッチ動作を完了して、OSDメニューを終了します。
Caps Lock	OSDを無効にします（大文字小文字の変更にはShiftキーを使用します）。
Esc	表示画面を閉じて前の画面に戻ります。 [Main]画面からOSDを終了します。
Alt	下線付きの文字と組み合わせて使用して、メニューを開くか、動作を実行します。
Alt+X	表示画面を閉じます。
F1	オンライン ヘルプを開きます。
画面	
	名前とポートのリストでページを上下に移動します。
	設定を変更せずに、表示画面を閉じて前の画面に戻ります。
	各画面のオンライン ヘルプを開きます。
	変更を受け入れ、表示画面を閉じ、前の画面に戻ります。

*注: 画面を印刷するには、この章の「画面キャプチャの実行」の項を参照してください。

Print Scrnキーを押してOSDをアクティブにしたら、矢印キーの代わりにマウスを使用してメニュー オプションを強調表示してください。

メニューの概要

次の表に、OSDの各メニューで使用できるオプションを示します。

表4-2: OSDメニュー ツリー

メイン メニュー	
Setup	Commands
Scan	Scan Enabled
Menu	Broadcast Active
Flag	Snapshot
Set Flag Position	Reset
Security	Version
Broadcast	
Devices	
Modify	
Names	

OSDの[Main]画面

Print Scrnキーを押すと、OSDメニューが開きます。

[Main]画面は、システム内のすべてのポート、対応するコンピュータ名、および各ポートのステータスを一覧表示します。デュアル コンソール8ポート コンソール スイッチを使用している場合は、ステータス記号の横の[A]または[B]でコンソール スイッチを識別できます。

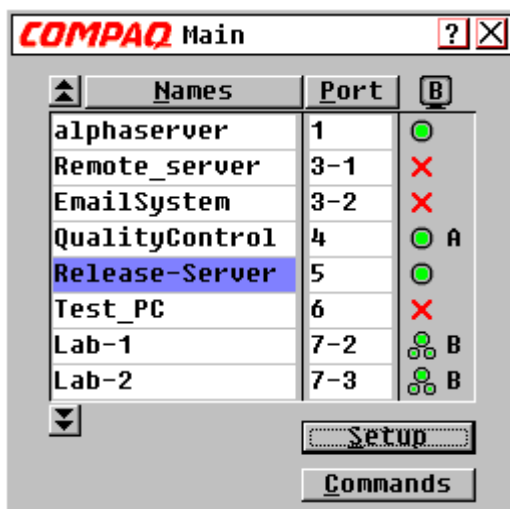







図4-1: [Main]画面の各機能

ボタン	機能	代わりの方法
Names	アルファベット順に名前 でソート	Alt + Nキーを押す。
Port	ポート番号でソート	Alt + Pキーを押す。
Setup	[Setup]画面を表示	Alt + Sキーを押す。
Commands	[Commands]画面を表示	Alt + Cキーを押す。

注: 強調表示されているポートは、選択されているデバイスを示します。

プライマリ ポートは、1つのポート番号で示されています。セカンダリ ポートは、接続されているプライマリ コンソール スイッチのポート番号と、それに続くダッシュ、およびセカンダリ ポートの番号で示されています。

表4-3: OSDの記号

記号	説明
	コンピュータは接続されて動作中です。
	接続されているコンピュータは動作中でないか、正しく動作していません。
	コンソール スイッチはカスケード接続されて動作中です。
	カスケード接続されているコンソール スイッチは動作中でないか、正しく動作していません。
	デュアル コンソール コンフィギュレーションでユーザを示します。
A、B	デュアル コンソール8ポート コンソール スイッチのコンソール識別子です。

[Setup]画面

[Setup]画面は、コンフィギュレーションを変更するためのメニュー オプションを一覧表示します。

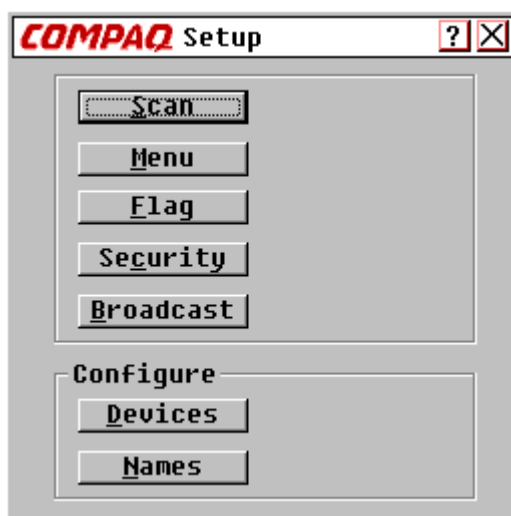


図4-2: [Setup]画面

ボタン	機能	代わりの方法
Scan	シーケンシャルな、またはカスタマイズされたスキャン パターンを設定	Alt + Sキーを押す。
Menu	表示順序、遅延時間、cooperativeまたはpreemptiveモードを設定	Alt + Mキーを押す。
Flag	フラグ表示をカスタマイズ	Alt + Fキーを押す。
Security	パスワードおよびスクリーン セーバを設定	Alt + Cキーを押す。
Broadcast	キーボードとマウスの同時制御を設定	Alt + Bキーを押す。

続く

図4-2: [Setup]画面 (続き)

ボタン	機能	代わりの方法
Devices	モニタおよびポート設定を確立	Alt + Dキーを押す。
Names	コンピュータに名前を割り当て	Alt + Nキーを押す。

[Commands]画面

[Commands]画面は、ユーザが起動できる動作を一覧表示します。

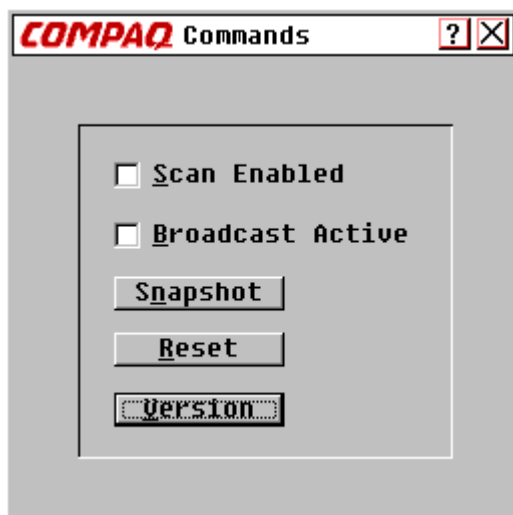


図4-3: [Commands]画面の機能

フィールド/ボタン	機能	代わりの方法
Scan Enabled	ポートからポートへ自動的にビデオを切り替え	Alt + Sキーを押す。
*Broadcast Active	1つのシステム内で2台以上のコンピュータを同時制御	Alt + Bキーを押す。

続く

図4-3: [Commands]画面の機能（続き）

フィールド/ボタン	機能	代わりの方法
**Snapshot	キーボードとマウスの現在の設定を記録	Alt + N キーを押す。
Reset	マウスとキーボードをデフォルト設定に戻す。	Alt + R キーを押す。
Version	ファームウェアのバージョン情報を表示	Alt + V キーを押す。

***[Broadcast Active]**を同時に選択できるのは、1ユーザのみです。

****[Snapshot]**により、コンソール スイッチがコンピュータの起動に使用するマウスとキーボードの情報が保存されます。コンソール スイッチ システムのインストール、システムへのコンピュータの追加または削除、もしくはマウス、キーボード、またはモニタの変更を行う際にハードウェアの設定を保存していないと、コンソール スイッチへの電源の消失または切断時にハードウェアの設定が失われます。その場合は、各コンピュータを再起動しなければなりません。

[Version]画面

システムのトラブルシューティングとサポートを簡単に行えるように、コンソール スイッチのファームウェアのバージョン番号、およびコンソール スイッチに接続されている任意の補助デバイスに関する情報を表示することができます。

[Version]画面には、現在選択されているコンピュータに関する特定のデバイス情報も表示されます。キーボード情報には、有効/無効、キーのリピート速度、LED設定、ポート モード、およびキーボードのタイプが含まれています。マウス情報には、有効/無効、サンプル レート、解像度、およびマウスのタイプが含まれています。

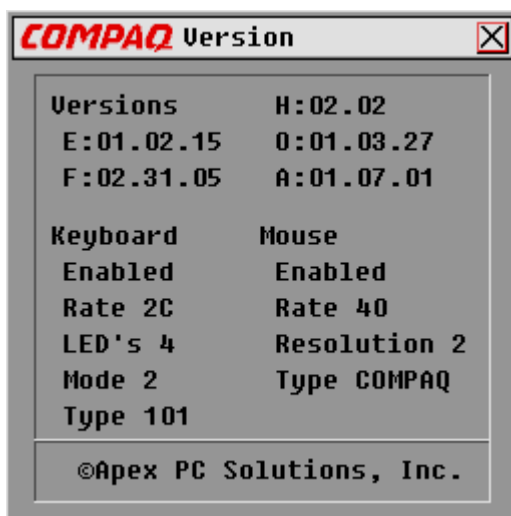


図4-4: [Version]画面

[Reset]コマンド

コンソール スイッチ ボックスは、マウスおよびキーボードの接続およびレート データを保存し、この情報を使用して物理的なマウスおよびキーボードをエミュレートします。コンソール スイッチと、マウスおよびキーボードとの間の通信に障害が発生した場合は、選択されたサーバが動作しない場合があります。[Reset]コマンドにより、[Snapshot]で保存されたマウスおよびキーボード情報が取り出されてサーバに送られ、マウスおよびキーボードとの接続が再確立されます。マウスとキーボードをリセットすると、選択されたコンピュータに対する正しい設定の復元が試みられます。

コンソール スイッチは物理的なマウスおよびキーボードをエミュレートするので、キーボードとマウスが接続されていないコンピュータが、あたかも物理的デバイスが接続されているかのように動作します。

マウスおよびキーボードの値をリセットするには、[Reset]をクリックしてください。

注: これにより問題が修正されない場合は、コンソール スイッチの背面パネルにあるResetボタンを押してください。

[Devices]画面

カスケード接続コンフィギュレーションでシステムに1台以上のセカンダリ コンソール スイッチが含まれている場合は、特定のデバイス タイプを割り当て、プライマリ コンソール スイッチがセカンダリ コンソール スイッチを認識できるようにしなければなりません。さらに、コンソール スイッチ システム内の1台以上のコンピュータが特殊なタイプのモニタを持つ場合は、そのコンピュータに対応するポートにそのモニタのタイプを割り当てなければならない可能性があります。

デバイスを変更するには、そのデバイスをダブルクリックするか、強調表示してから[Modify]をクリックします。

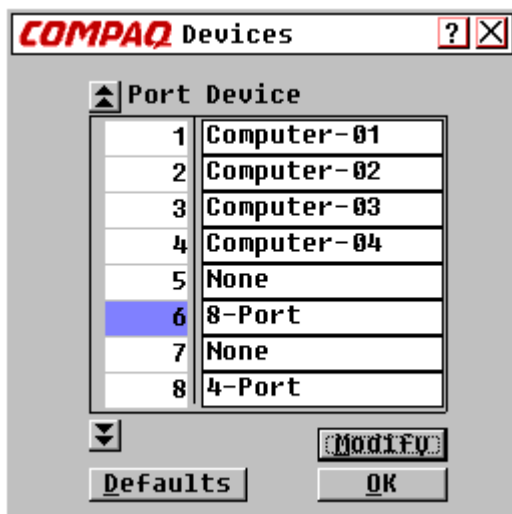


図4-5: [Devices]画面の機能

ボタン	機能	代わりの方法
Modify	ポート設定を変更するための[Device Modify]画面を表示	Alt+Mキーを押す。
Defaults	デフォルトのデバイス タイプおよびポート設定を使用	Alt+Dキーを押す。
OK	変更を受け入れ、表示画面を閉じ、前の画面に戻る。	Alt+Oキーを押す。

注: 強調表示されているポートは、選択されているデバイスを示します。

[Device Modify]画面

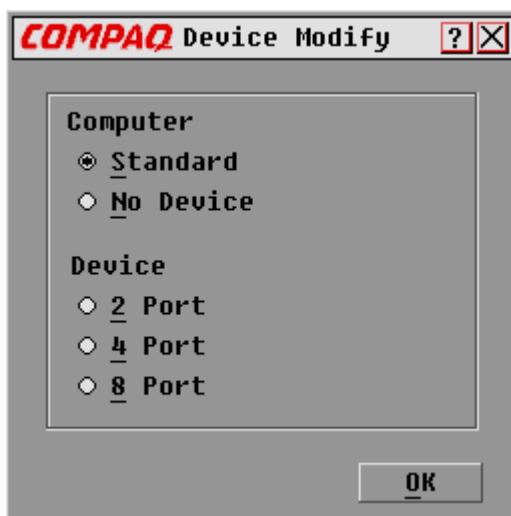


図4-6: [Device Modify]画面の機能

フィールド/ボタン	機能	代わりの方法
Standard	基本的なコンピュータ接続を使用	Alt + Sキーを押す。
No Device	コンソール スイッチもコンピュータも接続されていない場合、[Main]画面のコンピュータのリストからこの番号または名前を削除	Alt + Nキーを押す。

続く

図4-6: [Device Modify]画面の機能（続き）

フィールド/ボタン	機能	代わりの方法
2 Port	2ポート コンソール スイッチをセカンダリ システムとして割り当てる。	Alt + 2キーを押す。
4 Port	4ポート コンソール スイッチをセカンダリ システムとして割り当てる。	Alt + 4キーを押す。
8 Port	8ポート コンソール スイッチをセカンダリ システムとして割り当てる。	Alt + 8キーを押す。
OK	変更を受け入れ、表示画面を閉じ、前の画面に戻る。	Alt + Oキーを押す。

[Names]画面

この画面は、コンピュータをポート番号ではなく名前で識別するために使用します。

注: セカンダリ コンソール スイッチに接続されているコンピュータに名前を割り当てる前に、セカンダリ デバイスをポートに関連付けなければなりません。これを行った後は、ポートの番号付け構造が認識されて、セカンダリ ポートがユーザに見えるようになります。この章の「[Devices]画面」および「[Device Modify]画面」の項を参照してください。

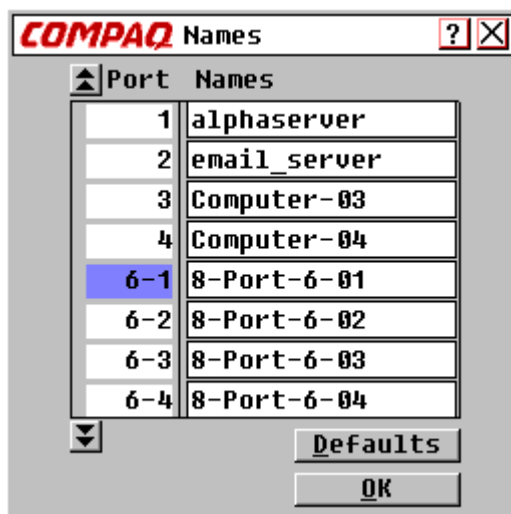


図4-7: [Names]メニューの機能

ボタン	機能	代わりの方法
Defaults	デフォルト設定を復元	Alt + Dキーを押す。
OK	変更を受け入れ、表示画面を閉じ、前の画面に戻る。	Alt + Oキーを押す。

注: 強調表示されているポートは、選択されているデバイスを示します。

コンピュータに固有の名前を割り当てるには、以下の手順に従ってください。

1. コンピュータのポート番号をクリックします。

2. [Names]フィールドにデバイス名を入力します。

コンピュータ名は最大15文字で、A～Zの大文字および小文字、0～9、ならびにダッシュを使用できます。入力を間違った場合は、**Backspace**キーまたは**Delete**キーを押して削除してください。上書きするには、行上の任意の場所でカーソルをクリックします。

3. 名前を付ける各コンピュータについて、手順1および2を繰り返します。

4. [OK]をクリックします。

既存のポートまたは名前を編集するには、ポートまたは名前をダブルクリックして、変更を行い、[OK]をクリックします。

[Menu]画面

この画面は、[Main]画面でのコンピュータの表示順序を設定するために使用します。デュアルコンソール8ポート コンソール スイッチを使用する場合は、この画面でコンソール スイッチの接続モードを選択してください。

注: シングル ユーザ コンソール スイッチでは、[Switch Mode]はグレー表示され、[Cooperative]および[Preemptive]は選択できません。

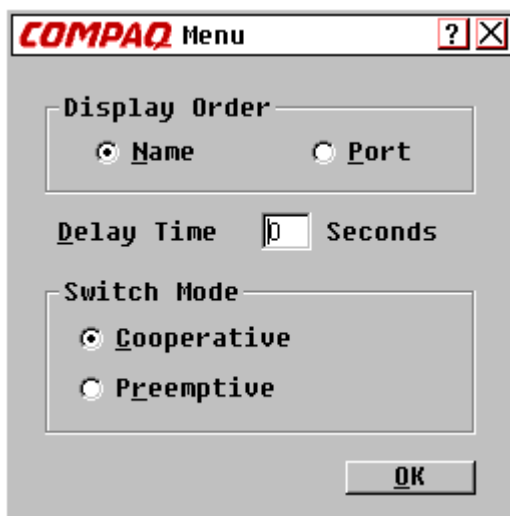


図4-8: [Menu]画面の機能

フィールド/ボタン	機能	代わりの方法
Name	コンピュータの表示順序を名前でソート	Alt + Nキーを押す。
Port	コンピュータの表示順序をポート番号でソート	Alt + Pキーを押す。

続く

図4-8: [Menu]画面の機能 (続き)

フィールド/ボタン	機能	代わりの方法
Delay Time	表示を遅らせる秒数を入力してソフト スイッチ*を可能にする。	Alt + Dキーを押す。
Cooperative	コンソール スイッチは現在のユーザ接続を維持して、他のユーザ コンソールが接続を要求してもこのユーザの接続は切断されない (デフォルト設定)。	Alt + Cキーを押す。
Preemptive	コンソール スイッチは、任意のユーザ コンソールがいつでも任意のコンピュータを選択することを許可	Alt + Rキーを押す。
OK	変更を受け入れ、表示画面を閉じ、前の画面に戻る。	Alt + Oキーを押す。

*[Delay Time]により、OSDメニューを表示せずにソフト スイッチを完了することが可能になります。この章の「ソフト スイッチの実行」の項を参照してください。

[Scan]画面

スキャン モードでは、コンソール スイッチは、ポートからポートに (コンピュータからコンピュータに) 自動的に切り替えを行います。システム全体をシーケンシャルにスキャンすることも、コンピュータと持続時間を指定して、カスタム スキャンのパターンを指定することもできます。

デュアル コンソール8ポートコンソール スイッチを使用している場合、複数のユーザおよびカスケード接続されたコンソール スイッチによりスキャン動作は影響を受けます。プライマリ位置のマルチ ユーザ コンソール スイッチおよびセカンダリ位置のシングル ユーザ コンソール スイッチにより、スキャン パターンが変わる状況が作られる場合があります。

例1 - ユーザAはプライマリ コンソール スイッチのポート2のセカンダリ コンソール スイッチに接続されたコンピュータ2-4にアクセスしていて、ユーザBはプライマリ コンソール スイッチのポート1のセカンダリ コンソール スイッチに接続されたコンピュータをスキャンします。

動作 - ポート1のコンソール スイッチはスキャンに使用できます。このスイッチにアクセスしているユーザはいません。キーボードで任意のキーが押された場合、またはマウスでクリックが行われた場合、スキャンは停止され、キーストロークまたはマウスの動作は、現在選択されているコンピュータに渡されます。

例2 - ユーザAはコンピュータ2-4にアクセスしていて、ユーザBはコンピュータ2-4をスキャンしています。

動作 - ユーザAの動作を監視します。現在選択されているコンピュータに、キーボードやマウスを使用してキーストロークまたはマウスの動作を渡すことはできません。

例3 - ユーザAはコンピュータ2-4にアクセスしていて、ユーザBはコンピュータ2-6のスキャンを希望しています。

動作 - スキップします。これは、ユーザAがポート2のプライマリ ポート接続を占有しているため、ユーザBは2-6を使用できないからです。

例4 - ユーザAはコンピュータ2-4にアクセスしていて、ユーザBはコンピュータ3-2をスキャンします。

動作 - ポート3のコンソール スイッチはスキャンに使用できます。このスイッチにアクセスしているユーザはいません。キーボードで任意のキーが押された場合、またはマウスでクリックが行われた場合、スキャンは停止され、キーストロークまたはマウスの動作は、現在選択されているコンピュータに渡されます。

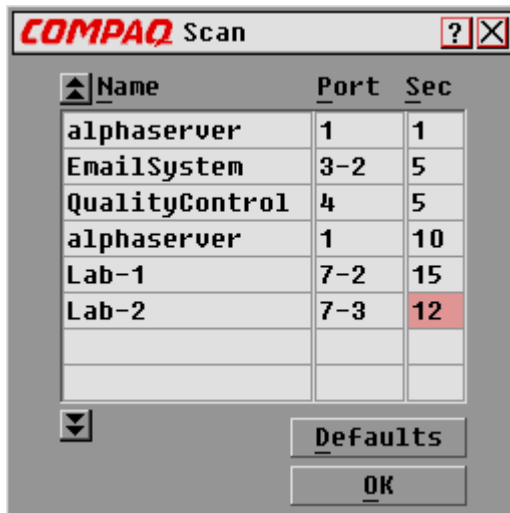


図4-9: [Scan]画面の機能

フィールド/ボタン	機能	代わりの方法
Names	コンピュータをアルファベット順に名前ですート	Alt + Nキーを押す。
Port	コンピュータをポート番号ですート	Alt + Pキーを押す。
Sec	スキャンが次のコンピュータに切り替わる前にコンピュータが選択される時間の長さを入力	Alt + Sキーを押す。
Defaults	デフォルト設定に戻す。	Alt + Dキーを押す。
OK	変更を保存して、前のメニューに戻る。	Alt + Oキーを押す。

注: 強調表示されているポートは、選択されているデバイスを示します。

カスタム スキャン パターンを設定するには、以下の手順に従ってください。

1. スキャンに含めるコンピュータについて、そのコンピュータの名前またはポート番号を、[Name]および[Port]ボックスに入力します。
2. シーケンスの中でのこのコンピュータの選択時間（このコンピュータが選択されてから次のコンピュータに切り替わるまで、秒単位）を、1～255の範囲で[Sec]カラムに入力します。
3. スキャンに含める残りの各コンピュータについて、これらの手順を繰り返します。
4. [OK]をクリックします。新しいスキャン パターンが、標準または前のカスタム スキャン パターンに置き換わります。

スキャン モードを開始するには、[Commands]画面で[Scan Enabled]を選択します。

スキャン モードをキャンセルするには、[Commands]画面で[Scan Enabled]の選択を解除します。

スキャン リストからコンピュータを削除するには、以下の手順に従ってください。

1. スキャン リストから削除するコンピュータをクリックします。
2. **Delete**キーを押します。
または、
Shift+Deleteキーを押して、現在のコンピュータおよびその下のすべてのコンピュータを削除します。
3. [OK]をクリックします。

[Flag]画面

ステータス フラグは、現在選択されているコンピュータの名前またはポート番号を示します。デュアル コンソール8ポート コンソール スイッチを使用する場合、コンソールごとに別のフラグ属性を設定できます。

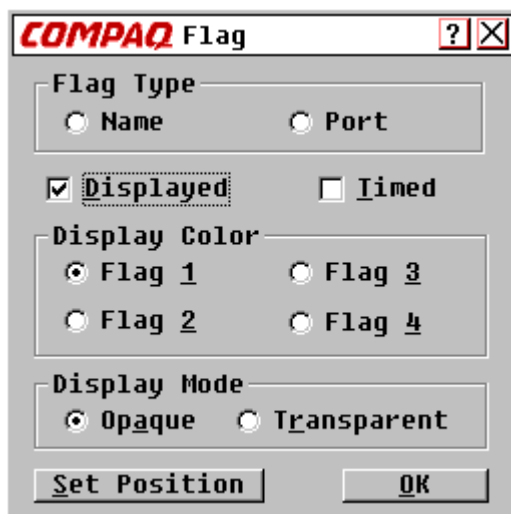


図4-10: [Flag]画面

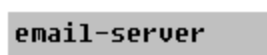


図4-11: 名前順にソートされたコンピュータにユーザが接続されていることを示すステータス フラグ



図4-12: ブロードキャスト機能が有効にされていること、およびポート順にソートされたカスケード接続のコンピュータにユーザが接続されていることを示すステータス フラグ

表4-4: [Flag]画面の機能

フィールド/ボタン	機能	代わりの方法
Name	コンピュータを名前で識別	Alt + N キーを押す。
Port	コンピュータをポートで識別	Alt + P キーを押す。
Displayed	常にフラグを表示	Alt + D キーを押す。
Timed	切り替え後、5秒間のみフラグを表示	Alt + T キーを押す。
Flag 1、2、3、4	カラー パレットを選択	Alt+1、2、3、または4 キーを押す
Opaque	フラグがデスクトップ イメージを覆うようにする。	Alt + A キーを押す。
Transparent	フラグを通してデスクトップ イメージが見えるようにする。	Alt + R キーを押す。
Set Position	画面上にフラグを配置	Alt + S キーを押す。
OK	現在の設定を保存して、前の画面に戻る。	Alt + O キーを押す。

ステータス フラグをデスクトップに配置するには、以下の手順に従ってください。

1. **[Set Position]**をクリックします。
2. デスクトップ上のステータス フラグを表示する場所に、タイトル バーをクリック アンド ドラッグします。
3. **[X]**をクリックしてダイアログ ボックスを終了します。設定が保存されます。

[Security]画面

セキュリティ機能により、キーボードとモニタをロックできます。キーボードとモニタがロックされている場合、動作を再開する前にパスワードを入力しなければなりません。また、スクリーンセーバを遅らせる秒数を入力することにより、システムがロックされる前の遅延時間を設定することもできます。

[Security]画面のフィールドにアクセスするには、パスワードを入力しなければなりません。正しいパスワードを入力すると、画面上の他のフィールドがアクティブになります。デュアルコンソール8ポートコンソールスイッチを使用する場合は、コンソールごとに別のパスワードを設定できます。



図4-13: [Security]画面の機能

フィールド/ボタン	機能	代わりの方法
New	新しいパスワードを入力、または現在のパスワードを確認	Alt + Nキーを押す。
Repeat	新しいパスワードを確認	Alt + Rキーを押す。
Enable Screen Saver	スクリーンセーバを有効にする。	Alt + Cキーを押す。

続く

図4-13: [Security]画面の機能（続き）

フィールド/ボタン	機能	代わりの方法
Time Delay	キーボードとモニタがロックされる前の時間を分単位で入力	Alt + Dキーを押す。
Energy	モニタが国際エネルギー スター プログラム準拠の場合、省電力機能を設定（注意を参照）	Alt + Eキーを押す。
Screen	モニタをノーマル モードで動作	Alt + Sキーを押す。
Test	スクリーン セーバ モードをただちに開始	Alt + Tキーを押す。
OK	設定を保存し、前のメニューに戻る。	Alt + Oキーを押す。



注意: 国際エネルギー スター プログラムに準拠していないモニタに[Energy]モードを使用すると、モニタが損傷する場合があります。モニタが国際エネルギー スター プログラムに準拠していない場合は、このモードは使用しないでください。

パスワードを変更するには、以下の手順に従ってください。

1. [New]フィールドに新しいパスワードを入力します。パスワードは最大8文字です。パスワードは大文字と小文字を区別し、アルファベットと数字を含むことが可能です。
2. [Repeat]フィールドに新しいパスワードを入力して、新しいパスワードを確認します。
3. [OK]をクリックします。

キーボードとモニタをロックするには、次の手順に従ってください。

1. [New]フィールドにパスワードを入力します。
2. [Enable Screen Saver]を選択します。
3. [Time Delay]フィールドに、スクリーン セーバの起動を遅らせる時間を分単位（1～254）で入力します。

4. モニタが国際エネルギー スター プログラムに準拠している場合は[Energy]を選択し、そうでない場合は[Screen]を選択します。



注意: 国際エネルギー スター プログラムに準拠していないモニタに[Energy]モードを使用すると、モニタが損傷する場合があります。モニタが国際エネルギー スター プログラムに準拠していない場合は、このモードは使用しないでください。

5. [Test]をクリックして、スクリーン セーバを表示します。
6. [OK]をクリックします。

コンソールをロックせずにモニタをブランクにするには、以下の手順に従ってください。

1. [New]フィールドのテキストを削除して、ボックスを空白のままにします。
2. [Enable Screen Saver]を選択します。
3. [Time Delay]フィールドに、スクリーン セーバの起動を遅らせる時間を分単位 (1 ~ 254) で入力します。
4. モニタが国際エネルギー スター プログラムに準拠している場合は[Energy]を選択し、そうでない場合は[Screen]を選択します。



注意: 国際エネルギー スター プログラムに準拠していないモニタに[Energy]モードを使用すると、モニタが損傷する場合があります。モニタが国際エネルギー スター プログラムに準拠していない場合は、このモードは使用しないでください。

5. [Test]をクリックして、スクリーン セーバを表示します。
6. [OK]をクリックします。

重要: この操作によりパスワードの使用は無効になります。キーボード上の任意のキーを押すと、コンソールのロックは解除されます。システムはセキュリティ保護されません。

スクリーン セーバを無効にするには、以下の手順に従ってください。

1. スクリーン セーバ モードで、キーボード上の任意のキーを押し、コンソール スイッチがパスワードで保護されている場合はパスワードを入力します。
2. **Print Scrn**キーを押して、[Main]画面を表示します。
3. [Setup | Security]をクリックします。
4. [New]フィールドにパスワードを入力します。
5. [Enable Screen Saver]の選択を解除します。
6. [OK]をクリックします。

スクリーン セーバ テスト

[OK]をクリックすると、スクリーン セーバ テストが起動されます。10秒後に、[Security]画面に戻ります。

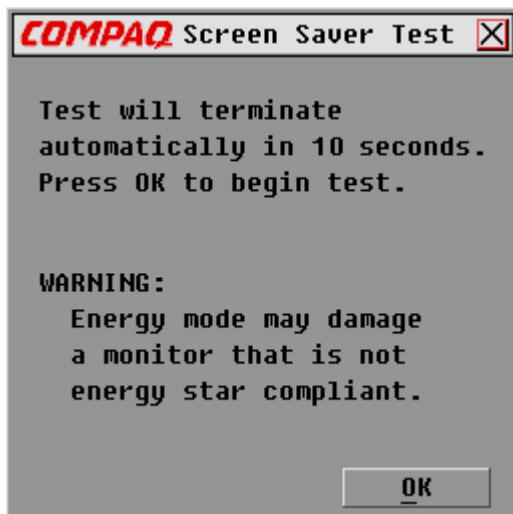


図4-14: スクリーン セーバ テスト

[Broadcast]画面

ブロードキャスト機能により、システム内の2台以上のコンピュータを同時に制御することができます。この機能は、選択されたすべてのコンピュータが同じ入力を受信するか確認したい場合に便利です。カスケード接続されたシステムでは、システム全体の任意のコンピュータの組み合わせにブロードキャストすることができます。

キーボード

キーストロークが同一に解釈されるように、ブロードキャストを受信しているすべてのコンピュータでキーボードの状態は同一でなければなりません。特に、**Caps Lock**および**Num Lock**モードは、すべてのキーボードで同じでなければなりません。

マウス

マウスが正確に動作するには、すべてのシステムが同一のマウス ドライバ、同一のデスクトップ（つまり、同一に配置されたアイコン）、および同一のビデオ解像度を持っていなければなりません。さらに、すべての画面上でマウスは正確に同じ位置になければなりません。これらの条件を達成するのは非常に困難なため、複数のシステムへのマウス動作のブロードキャストにより、予期しない結果が発生する場合があります。

コンソール スイッチは、キーストロークおよびマウスの動作を、選択されたコンピュータに同時に送ろうとします。ただし、コンピュータによっては、妨害が発生して転送が遅れる場合があります。

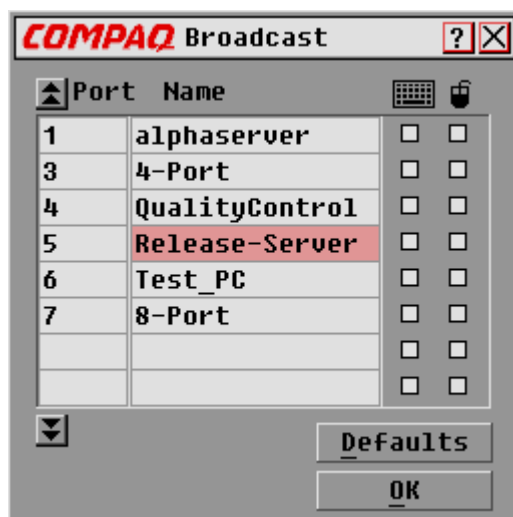


図4-15: [Broadcast]画面の機能

フィールド/ボタン	機能	代わりの方法
Defaults	デフォルト設定(すべてオフ)に戻す。	Alt + Dキーを押す。
OK	変更を保存し、前のメニューに戻る。	Alt + Oキーを押す。

注: 強調表示されているポートは、選択されているデバイスを示します。

選択されたコンピュータにブロードキャストするには、以下の手順に従ってください。

1. キーストロークおよびマウス動作、またはそのいずれかを受信するように、キーボードとマウスのボックス、またはそのいずれかを選択します。
2. **[OK]**をクリックします。
3. **[Commands]**画面で**[Broadcast Active]**を選択すると、ブロードキャストが起動されます。

ブロードキャスト モードをオフにするには、**[Commands]**画面で**[Broadcast Active]**の選択を解除します。

カスケード接続コンフィギュレーションへのブロードキャスト

カスケード接続されたシステムでは、システム全体の任意のコンピュータの組み合わせにブロードキャストすることができます。

カスケード接続コンフィギュレーションにブロードキャストするには、以下の手順に従ってください。

セカンダリ コンソール スイッチに接続されたコンピュータのセットアップ

1. **[Main]**画面で、ブロードキャスト先のセカンダリ コンソール スイッチのコンピュータ名またはポート番号をダブルクリックします。**Print Scrn**キーを2回押します。セカンダリ コンソール スイッチの**[Main]**画面が表示されます。
2. **[Setup | Broadcast]**をクリックします。
3. キーストロークおよびマウス動作、またはそのいずれかを受信する各コンピュータについて、キーボードとマウスのボックスをチェックしてから、**[OK]**をクリックします。
4. **[Commands]**画面で、**[Broadcast Active]**を選択して、セカンダリ コンソール スイッチのブロードキャスト モードをオンにします。
5. **Print Scrn**キーを押して、プライマリ コンソール スイッチの**[Main]**メニューを開きます。
6. 手順1～5を繰り返して、その他のセカンダリ コンソール スイッチに接続されたコンピュータにブロードキャスト コマンドを送ります。

プライマリ コンソール スイッチに接続されたコンピュータのセットアップ

1. プライマリ コンソール スイッチの[Main]メニューで、[Setup | Broadcast]をクリックします。
2. キーストロークおよびマウス動作、またはそのいずれかを受信する各コンピュータについて、キーボードとマウスのボックスをチェックしてから、[OK]をクリックします。
3. [Commands]画面で、[Broadcast Active]を選択して、プライマリ コンソール スイッチのブロードキャスト モードをオンにします。
4. プライマリ コンソール スイッチおよびセカンダリ コンソール スイッチに接続されているユーザ コンソールから、ブロードキャストしたい情報を入力しマウスの動作を実行するか、またはそのいずれかを行います。

注: ブロードキャストは、プライマリ コンソール スイッチに直接接続されたシステムのみ、またはプライマリ コンソール スイッチに接続されたセカンダリ コンソール スイッチに直接接続されたシステムのみに行ってください。

カスケード接続コンフィギュレーションのブロードキャストモードをオフにするには、以下の手順に従ってください。

1. プライマリ コンソール スイッチの[Commands]画面で、[Broadcast Active]の選択を解除します。
2. [Main]画面で、コマンドのブロードキャストを停止したいセカンダリ コンソール スイッチのポート番号または名前をダブルクリックします。**Print Scrn**キーを2回押します。セカンダリ コンソール スイッチの[Main]画面が表示されます。
3. [Commands]をクリックします。
4. [Broadcast Active]の選択を解除します。

セカンダリ コンソール スイッチのOSDへのアクセス

コンソール スイッチ システムのコンフィギュレーションは、プライマリ コンソール スイッチで行われます。すべての名前付け、スキャン、ステータス フラグ属性、メニュー属性、デバイス設定、パスワード等は、プライマリ コンソール スイッチで設定しなければなりません。セカンダリ コンソール スイッチのOSDに設定されている工場出荷時のデフォルトは変更しないでください。変更すると、セカンダリ コンソール スイッチとプライマリ コンソール スイッチの間で衝突が発生する可能性があります。

セカンダリ コンソール スイッチのOSDメニューには、次の操作のためにアクセスします。

- ファームウェアのバージョン情報のチェック

- ブロードキャスト機能のセットアップ
- カスケード接続コンフィギュレーションに他のレベルのセキュリティを追加
- [Snapshot]を使用して、セカンダリ コンソール スイッチでハードウェア設定を保存
- セカンダリ コンソール スイッチのマウスおよびキーボード情報をリセット

セカンダリ コンソール スイッチの[Main]画面を開くには、以下の手順に従ってください。

1. **Print Scrn**キーを押して、プライマリ コンソール スイッチの[Main]画面を開きます。
2. アクセスしたいカスケード接続ポートの番号をダブルクリックするか、カスケード接続ポートを強調表示して**Print Scrn**キーを押します。セカンダリ コンソール スイッチの[Main]画面が表示されます。

コンピュータ間の切り替え

コンソール スイッチ ボックスを使用したコンピュータ間の切り替えは簡単です。切り替えにより、キーボード、マウス、モニタは1台のコンピュータから切り離され、他のコンピュータに接続されます。

2台のコンピュータ間で切り替える場合、コンソール スイッチ ボックスは、メモリに保存された設定を使用して、キーボードとマウスを再設定します。たとえば、現在選択されているコンピュータでは**Caps Lock**機能がオンで、ユーザが切り替えようとしている2番目のコンピュータでは**Caps Lock**機能がオフの場合、ユニットは**Caps Lock**機能をオフにして2番目のコンピュータの設定に合わせます。

コンピュータを切り替えるには、以下の手順に従ってください。

1. **Print Scrn**キーを押して、[Main]メニュー画面を表示します。
2. コンピュータ名またはポートをダブルクリックします。

または、

ポートを強調表示して、**Enter**キーを押します。

または、

ポート番号を入力するか、コンピュータ名を識別できる最初のいくつかの文字を入力してから、**Enter**キーを押します。

ソフト スイッチの実行

OSDメニューを開いた後は、OSDメニューを表示せずにコンピュータ間を切り替えることができます。

ソフト スイッチを実行するには、以下の手順に従ってください。

1. [Setup]、[Menu]をクリックします。
2. **Print Scrn**キーを押した後で[Main] OSDメニューが表示されるまでの遅延時間を入力します。
3. [OK]をクリックします。
4. [Main]メニュー画面で、ポート番号を入力するか、コンピュータ名を識別できる最初のいくつかの文字を入力してから、**Enter**キーを押します。
5. 別のコンピュータに切り替えるには、**Print Scrn**キーを押して、ポート番号またはコンピュータ名を識別できる最初のいくつかの文字を入力します。遅延時間が切れる前に切り替えが実行された場合、OSDメニューは表示されません。

画面キャプチャの実行

コンソール スイッチ ボックス システムでは、**Print Scrn**キーを押すとOSDメニューが開きます。コンピュータにより表示される画面キャプチャを印刷するには、次の手順を使用してください。

- プライマリ コンソール スイッチに接続されたコンピュータでは、**Print Scrn**キーを2回押します。最初のキーストロークで、プライマリ コンソール スイッチのOSDメニューが開きます。2回目のキーストロークで、画面がクリアされ、キーストロークが他のデバイスに送られて、画面のキャプチャまたは印刷が実行されます。
- カスケード接続コンフィギュレーションのセカンダリ コンソール スイッチに接続されたコンピュータでは、**Print Scrn**キーを4回押します。最初のキーストロークで、プライマリ コンソール スイッチのOSDが表示されます。2回目のキーストロークで、セカンダリ コンソール スイッチのOSDが表示されます。3回目のキーストロークで、両方のOSDが表示されます。4回目のキーストロークで、画面がクリアされ、画面のキャプチャまたは印刷が実行されます。

簡易OSDの使用

簡易OSDは、2ポート コンソール スイッチ専用です。

OSDの起動

Print Scrnキーを押して、キーボード/ビデオ/マウスOSDメニューにアクセスします。コンピュータにより表示される画面キャプチャを印刷するには、次の手順を使用してください。

画面キャプチャの印刷

- **プライマリ** コンソール スイッチに接続されたコンピュータでは、**Print Scrn**キーを2回押します。

最初のキーストロークで、**プライマリ** コンソール スイッチの簡易OSDメニューが開きます。2回目のキーストロークで、画面がクリアされ、画面のキャプチャまたは印刷が実行されます。

- カスケード接続コンフィギュレーションの**セカンダリ** コンソール スイッチに接続されたコンピュータでは、**Print Scrn**キーを4回押します。

最初のキーストロークで、**プライマリ** コンソール スイッチの簡易OSDが表示されます。2回目のキーストロークで、**セカンダリ** コンソール スイッチの簡易OSDが表示されます。3回目のキーストロークで、両方の簡易OSDが表示されます。4回目のキーストロークで、画面がクリアされ、画面のキャプチャまたは印刷が実行されます。

簡易OSDの[Selection]画面

Print Scrnキーを押して簡易OSDメニューを開いた場合、最初に表示される画面は、**簡易OSDの[Selection]画面**です。コンピュータの選択や、ポート/コンピュータのステータスのチェックなどの基本機能は、この画面で実行されます。

簡易OSDの[Selection]画面は、システム内のすべてのポート、対応するコンピュータ名、および各ポートのステータスを一覧表示します。この画面は、ポート番号またはコンピュータ名により編成することができます。コンピュータを名前で識別するには、この章の「コンピュータに固有の名前を割り当てる」の項を参照してください。リストにコンピュータが表示される順序を変更するには、「メニュー属性の変更」の項を参照してください。大規模システムでは、矢印キーまたは**Page Down**キーを使用して、ポートのリストをスクロールしなければならない場合があります。

プライマリ コンソール スイッチの簡易OSDを開く、または簡易OSDの[Selection]画面にアクセスする

1. **Print Scrn**キーを押して、プライマリ コンソール スイッチの**簡易OSD [Selection]画面**にアクセスします。
2. アクセスするポートの番号を強調表示します。**Print Scrn**キーを押します。セカンダリ コンソール スイッチの**簡易OSDの[Selection]画面**が表示されます。

SELECTION SCREEN		
Port	Name	
1	COMPUTER 1	+
2	COMPUTER 2	
F1 Help		F2 Advanced

図5-1: [Selection]画面

セカンダリ コンソール スイッチの簡易OSDに設定されている工場出荷時のデフォルトは変更しないでください。変更すると、セカンダリ コンソール スイッチとプライマリ コンソール スイッチの間で衝突が発生する可能性があります。

簡易OSDのステータス ポートの記号

+—コンピュータは接続されて動作中です。

x—セカンダリ コンソール スイッチが接続され動作しています。

注: このガイドの簡易OSD画面は一例です。実際の画面は、コンフィギュレーションにより異なる場合があります。

簡易OSDの[Advanced Menus]画面

コンピュータの選択以外のコマンドはすべて、**簡易OSDの[Advanced Menus]**から実行します。**[Advanced Menus]**画面には2つのメニューがあります。**[Commands]**メニューには、動作を実行するコマンドが表示されます。**[Setup]**メニューには、コンフィギュレーションを設定するためのメニュー画面が表示されます。

簡易OSDの[Advanced Menus]を開く

1. **Print Scrn**キーを押して、簡易OSDの[Selection]を開きます。
2. **F2**キーを押します。

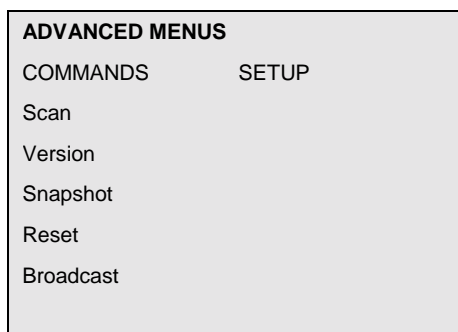


図5-2: [Advanced Menus]の[Commands]

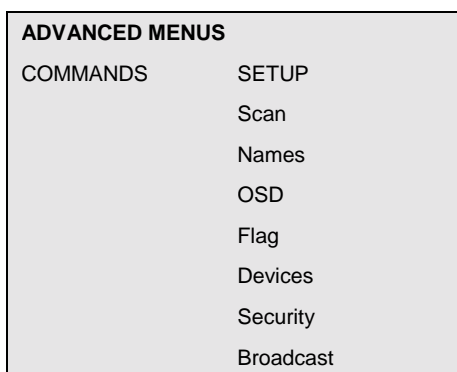


図5-3: [Advanced Menu]の[Setup]

簡易OSDの[Advanced Menu]画面が表示され、[Commands]メニューの下にコマンドのリストが表示されます。[Setup]を強調表示すると、コンソール スイッチの設定に使用できる選択画面が表示されます。いずれかのメニューで、矢印キーまたはマウスを使用して強調表示を移動すると、特定のコマンドまたはメニュー画面が選択されます。

注: ブロードキャスト オプションは、2ポート コンソール スイッチでは使用できません。

簡易OSDを終了する

簡易OSDを終了するには、**Esc**キーを押します。

コンピュータの選択

簡易OSDメニューを使用して、コンピュータを切り替えます。すなわち、コンソールからコマンドを受信し、コンソールに出力を表示するコンピュータを選択します。コンピュータを選択すると、コンソール スイッチは、メモリに保存された設定を使用して、選択されたコンピュータ用にキーボードとマウスを再設定します。システム内の各コンピュータについて、現在の情報（たとえば、**Caps Lock**キーの状態）が保持されています。設定が完了すると、選択されたコンピュータのビデオ出力がモニタに送られます。

コンピュータを切り替える

1. **簡易OSDの[Selection]画面**で、コンピュータがポート番号で並べられている場合は、切り替え先のコンピュータのポート番号を入力します。

または、

矢印キーまたはマウスを使用して、コンピュータを選択します。

または、

コンピュータが名前で並べられている場合は、コンピュータ名を識別できる最初のいくつかの文字をタイプしてコンピュータを選択します。コンピュータを名前で識別するには、この章の「コンピュータに固有の名前を割り当てる」の項を参照してください。
2. **Enter**キーを押します。
3. 切り替えが完了したら、**Esc**キーを押して**簡易OSDの[Selection]画面**を終了し、簡易OSDメニューをモニタ表示から削除します。ステータス フラグが有効にされている場合は、現在選択されているコンピュータを示すために表示されたままになります。

コンピュータに固有の名前を割り当てる

システム内のコンピュータは、ポート番号ではなく名前で識別する方が簡単な場合があります。たとえば、ネットワーク環境で、ネットワークで各コンピュータに割り当てられた名前と同じ名前を割り当てることができます。簡易OSDメニューでコンピュータを名前でリストするには、この章の「メニュー属性の変更」を参照してください。

注: セカンダリ コンソール スイッチに接続されたコンピュータに名前を割り当てる前に、セカンダリ デバイスをポートに関連付けなければなりません。この章の「特定のデバイス タイプの割り当て」を参照してください。

コンピュータに固有の名前を割り当てるには、以下の手順に従ってください。

1. [Advanced Menus]画面で、強調表示を[Setup]メニューに移動します。
2. [Names]を強調表示して、**Enter**キーを押します。[Port Name Setup]画面が表示されます。

PORT NAME SETUP	
Port	Name
1	COMPUTER 1
2	COMPUTER 2

図5-4: [Port Name Setup]画面

3. コンピュータ名を入力または変更するポート番号を選択します。
4. コンピュータの名前を入力します。コンピュータ名は最大12文字で、A～Z、0～9、およびダッシュを使用できます。小文字は大文字に変換されます。誤った入力を削除するには、**Backspace**キーを押します。
5. 必要ならば、システム内の各コンピュータについて手順3および4を繰り返します。
6. **Enter**キーを押して設定を保存し、メニューを終了します。
または、
F10キーを押して、デフォルト設定を復元します。
または、
Escキーを押して、設定を保存せずにメニューを終了します。

メニュー属性の変更

[OSD Attributes]画面では、コンピュータ ポートの表示順序を、ポート番号からポート名に変更することができます。位置や色などの、簡易OSD画面のその他の属性は、システムの使用状況に合わせて変更できます。

メニュー属性を変更するには、以下の手順に従ってください。

1. [Advanced Menus]画面で、強調表示を[Setup]メニューに移動します。
2. [OSD]を強調表示して、**Enter**キーを押します。[OSD Attributes]画面が表示されます。

OSD ATTRIBUTES	
Resolution	320
Height	56
Horizontal	3
Vertical	4
Background	7
Highlight	6
Text	0
Delay Time	0
Order	PORT

図5-5: [OSD Attributes]画面

3. 変更する設定を強調表示し、+または-キーを使用して希望する値にします。

他の値を選択すると、その変更はただちに表示に反映されます。表5-1に、使用可能な各メニュー属性についての説明を示します。

注: 簡易OSD属性の変更中に、メニューと画面が混乱し、問題を修正できなくなる場合があります。このような状況が発生したら、**Esc + Esc + Print Scrn + F10 + Y + Enter**キーを押して、コンソールスイッチを簡易OSDのデフォルト値にリセットしてください。

4. **Enter**キーを押して設定を保存し、メニューを終了します。

または、

F10キーを押してデフォルト設定を復元します。

または、

Enterキーを押して、設定を保存せずにメニューを終了します。

画面表示への設定の影響

表5-1: 画面表示の設定

変更対象	選択	値
画面のサイズ	Resolution	320、480、または640を選択。値が小さいほどサイズは大きくなります。
テキスト サイズ	Height	値が大きいほどテキスト表示は大きくなります。
画面の位置	Horizontal	0-127
	Vertical	0-255

続く

表5-1: 画面表示の設定 (続き)

変更対象	選択	値
画面およびテキストの色	Background	0-7
	Highlight	0-7
	Text	0-7
簡易OSDのタイミング	Delay Time	Print Scrn キーを押した後で [Selection] 画面が表示されるまでの遅延時間の秒数。遅延時間を長くすることで、簡単なコンピュータの切り替え動作を行う際の画面の混乱を防ぐことができます。
コンピュータの順序	Order	コンピュータを、ポート番号または名前のアルファベット順にリストすることを選択します。

ステータス フラグ属性の変更

ステータス フラグは、現在選択されているコンピュータの名前またはポート番号を示します。ステータス フラグは、常に表示、切り替え後の数秒間表示、またはまったく表示しないことを選択できます。また、ステータス フラグの色と画面上の位置も変更できます。

ステータス フラグの属性を変更するには、以下の手順に従ってください。

1. [Advanced Menus]画面で、強調表示を[Setup]メニューに移動します。
2. [Flag]を強調表示して、**Enter**キーを押します。[Flag Configuration]画面が表示されます。

FLAG CONFIGURATION	
Enabled	PORTS ON
Row	14
Column	1
Color	2
Text	0
Mode	OPAQUE

図5-6: [Flag Configuration]画面

3. 変更する設定を強調表示し、+または-キーを使用して値を調節します。表5-2に、使用可能な各メニュー属性についての説明を示します。
4. **Enter**キーを押して設定を保存し、メニューを終了します。
または、
F10キーを押してデフォルト設定を復元します。
または、
Enterキーを押して、設定を保存せずにメニューを終了します。

フラグ表示の値および設定の影響

表5-2: フラグ表示の設定

設定	値	影響
Enabled	Flag Off	フラグは表示されません。
	Ports On	選択されたポート番号を示します。
	Names On	選択されたコンピュータを名前で示します。
	Ports Timed	切り替え後の5秒間、ポート番号を表示します。
	Names Timed	切り替え後の5秒間、名前を表示します。
Row	0–14	フラグを画面上に垂直に配置します。
Column	0–25	フラグを画面上に水平に配置します。
Color	0–7	フラグの色を設定します。
Text	0–7	フラグのテキストの色を設定します。
Mode	Opaque	フラグを不透明にします。
	Transparent	フラグを透明にします。

コンピュータのスキャン

スキャン モードでは、コンソール スイッチは、ポートからポートに（コンピュータからコンピュータに）自動的に切り替えを行います。システム全体をシーケンシャルにスキャンすることも、コンピュータと持続時間を指定して、カスタム スキャンのパターンを指定することもできます。

スイッチをスキャン モードにする

スイッチをスキャン モードにするには、以下の手順に従ってください。

1. [Advanced Menus]画面の[Commands]メニューで、[Scan]に強調表示を移動します。
2. **Enter**キーを押します。

スキャン モードをキャンセルする

任意のキー（**Print Scrn**キーを除く）を押すか、マウスを移動します。スキャンは、現在選択されているコンピュータで停止します。

カスタム スキャン パターンを設定する

カスタム スキャン パターンを設定するには、以下の手順に従ってください。

1. [Advanced Menus]画面で、強調表示を[Setup]メニューに移動します。
2. [Scan]を強調表示して、**Enter**キーを押します。[Scan Pattern Setup]画面が表示され、最初のポート位置（またはコンピュータ名）が強調表示されます。

SCAN PATTERN SETUP		
Port	Sec	Name
1	20	Computer 1
2	20	Computer 2
F2 for defaults		

図5-7: [Scan Pattern Setup]画面

3. スキャンに含める最初のコンピュータのポート番号を入力します。
または、
コンピュータが名前でリストされている場合は、スキャンに含める1台目のコンピュータの名前を識別できる最初のいくつかの文字を入力します。
4. [Sec]カラムに強調表示を移動して、シーケンスの中で次のコンピュータに切り替わる前にこのコンピュータが選択されたままにする秒数を入力します。
5. 強調表示を次の行に移動し、残りの各コンピュータについて手順3および4を繰り返します。
6. **Enter**キーを押して設定を保存し、メニューを終了します。新しいスキャン パターンが、標準または前のカスタム スキャン パターンに置き換わります。
または、
F10キーを押してデフォルト設定を復元します。
または、
Escキーを押して、設定を保存せずにメニューを終了します。

スキャン リストからコンピュータを削除する

スキャン リストからコンピュータを削除するには、以下の手順に従ってください。

1. [Scan Pattern Setup]画面で、削除するコンピュータのポート番号を入力します。
または、
コンピュータが名前でリストされている場合は、コンピュータの名前を識別できる最初のいくつかの文字を入力します。
2. [Sec]カラムに強調表示を移動します。

3. 秒数として**0**を入力します。
4. **[Scan Pattern Setup]**画面で、**Delete**キーを押して、強調表示されているコンピュータおよびその下のすべてのエントリを削除します。
5. **Enter**キーを押して設定を保存し、メニューを終了します。新しいスキャン パターンが、標準または前のカスタム スキャン パターンに置き換わります。

または、

F10キーを押してデフォルト設定を復元します。

または、

Escキーを押して、設定を保存せずにメニューを終了します。

サーバ アクセスのセキュリティ設定

高度なサーバ アプリケーションは、権限のないユーザに対して保護しなければなりません。コンソール スイッチのセキュリティ機能により、キーボードおよびモニタをロックして、動作を再開する前にパスワードの入力を要求することができます。また、システムがロックされる前の遅延時間を設定することもできます。

[Security Configuration]画面のフィールドにアクセスするには、パスワードを入力する必要があります。正しいパスワードを入力すると、画面上の他のフィールドがアクティブになります。

画面およびキーボードをロックする

画面とキーボードをロックするには、以下の手順に従ってください。

1. [Advanced Menus]画面で、強調表示を[Setup]メニューに移動します。
2. [Security]を強調表示して、**Enter**キーを押します。[Security Configuration]画面が表示されます。

SECURITY CONFIGURATION	
Password	-----
New password	-----
Repeat new	-----
Time Delay	OFF
Mode	SCREEN
Test	

図5-8: [Security Configuration]画面

3. パスワードを入力して**Enter**キーを押します。

パスワードは最大8文字です（大文字と小文字を区別します）。確認のため、新しいパスワードは2回入力してください。

注: 工場出荷時のデフォルトのパスワードはOSCARです。デフォルトで**Caps Lock**キーが無効になっているので、**Shift**キーを押したまま各文字を入力する必要があります。

4. [Time Delay]を強調表示し、スクリーン セーバをオンにする前の遅延時間を、1～254の分単位で選択します。
5. [Mode]を強調表示します。国際エネルギー スター プログラムに準拠しているモニタを使用している場合は[Energy]を選択し、それ以外のタイプのモニタを使用している場合は[Screen]を選択します。



注意: 国際エネルギー スター プログラムに準拠していないモニタに[Energy]モードを使用すると、モニタが損傷する場合があります。

6. スクリーン セーバ モードを有効にするには、[Time Delay]または[Mode]フィールドのいずれかで**Enter**キーを押します。

または、

[Test]を強調表示して**Enter**キーを押すと、スクリーン セーバ モードがただちに起動します。表5-3に、可能な設定を示します。

表5-3: [Security Configuration]の設定

設定	動作
Password	現在のパスワードを入力すると、他のフィールドがアクティブになります。
New Password	新しいパスワードを入力します。
Repeat new	確認のために新しいパスワードを再度入力します。
Time Delay	1 ~ 254分の値を設定するか、OFFを選択します。
Mode	Energy—モニタをオフにします。遅延時間を経過すると低電力モードに入る国際エネルギー スター プログラムに準拠しているモニタ のみ に使用してください。 Screen—遅延時間を経過するとビデオをオフにします。国際エネルギー スター プログラムに準拠しないモニタに使用してください。
Test	選択されたモードをただちにアクティブにします。

スクリーン セーバをオフにする

スクリーン セーバをオフにするには、以下の手順に従ってください。

1. スクリーン セーバ モードで、キーボード上の任意のキーを押し、コンソールがパスワードで保護されている場合はパスワードを入力します。
2. [Advanced Menus]画面で、強調表示を[Setup]メニューに移動します。
3. [Security]を強調表示して、**Enter**キーを押します。[Security Configuration]画面が表示されます。
4. [Time Delay]を強調表示して、[OFF]を選択します。**Enter**キーを押します。

コンソールをロックせずにモニタをブランクにする

コンソールをロックせずにモニタをブランクにするには、以下の手順に従ってください。

1. スクリーン セーバ モードで、キーボード上の任意のキーを押し、コンソールがパスワードで保護されている場合はパスワードを入力します。
2. [Advanced Menus]画面で、強調表示を[Setup]メニューに移動します。
3. [Security]を強調表示して、**Enter**キーを押します。[Security Configuration]画面が表示されます。
4. [Security Configuration]画面で、[New Password]および[Repeat New]フィールドを空にして**Enter**キーを2回押します。
5. 変更する設定を強調表示し、+または-キーを使用して値を調節します。
6. [Test]を強調表示して**Enter**キーを押すと、スクリーン セーバ モードがただちに起動します。

この操作によりパスワードの使用は無効になります。キーボード上の任意のキーを押すと、コンソールのロックは解除されます。コンピュータは権限のないユーザに対して保護されなくなります。

バージョン情報の表示

システムのトラブルシューティングとサポートを簡単に行うために、スイッチ ファームウェアのバージョン番号、およびスイッチに接続されている任意の補助デバイスについての情報を表示することができます。

[Version]画面には、現在選択されているコンピュータに関する特定のデバイス情報も表示されます。キーボードについては、有効/無効、キーのリピート速度、LED設定、ポート モード、およびキーボードのタイプが含まれ、マウスについては、有効/無効、サンプル レート、解像度、およびマウスのタイプが含まれています。

バージョン情報およびデバイスの設定を表示するには、以下の手順に従ってください。

1. [Advanced Menus]画面の[Commands]メニューで、強調表示を[Version]に移動してEnterキーを押します。[Version]画面が表示されます。

VERSION			
Firmware		x.x.x	
Hardware		x x x	
Dip Switch F			
Port 1		COMPUTER 1	
Keyboard		Mouse	
ENABLED		DISABLED	
Rate	2C	Rate	100
LEDs	2	Res	2
Mode	2		
Type 101		Type Gen	

図5-9: [Version]画面

2. 補助デバイスについてのバージョン情報を表示するには、F2キーを押します。
3. Escキーを押して[Version]画面を閉じます。

ハードウェア設定の保存

システムにコンピュータを追加または削除する場合、もしくはマウスまたはモニタを変更する場合は、ハードウェアの設定を保存してください。設定を保存していないと、電源の消失または切断時にハードウェアの設定が失われます。その場合、各コンピュータを再起動してキーボードとマウスの通信を再確立しなければならない可能性があります。

ハードウェアの設定を保存するには、以下の手順に従ってください。

1. [Advanced Menus]画面の[Commands]メニューで、[Snapshot]を強調表示します。
2. **Enter**キーを押します。

マウスおよびキーボードのリセット

キーボードまたはマウスがロック アップした場合は、コンソール スイッチをリセットすることによりデバイスの設定を回復できる可能性があります。マウスとキーボードをリセットすると、選択されたコンピュータに対する正しい設定の復元が試みられます。

マウスおよびキーボードの値をリセットするには、以下の手順に従ってください。

1. [Advanced Menus]画面の[Commands]メニューで、[Reset]を強調表示して、**Enter**キーを押します。
2. 手順1で問題が修正されない場合は、コンソール スイッチの背面パネルにあるResetボタンを押してください。

特定のデバイス タイプの割り当て

カスケード接続コンフィギュレーションでシステムに1台以上のセカンダリ コンソール スイッチが含まれている場合は、特定のデバイス タイプを割り当て、プライマリ コンソール スイッチがセカンダリ コンソール スイッチを認識できるようにしなければなりません。さらに、システム内の1台以上のコンピュータが、特殊なタイプのモニタまたはその他のデバイスを必要とする場合は、そのコンピュータに対応するポートにそのデバイス タイプを割り当てなければなりません可能性があります。

デバイス タイプを割り当てるには、以下の手順に従ってください。

1. [Advanced Menus]画面で、強調表示を[Setup]メニューに移動します。
2. [Devices]を強調表示して、**Enter**キーを押します。[Device Settings]画面が表示されます。

DEVICE SETTINGS	
Port	Monitor
1	SVGA
2	SVGA

図5-10: [Device Settings]画面

3. ポートにセカンダリ スイッチを割り当てるには、ポートを強調表示し、+または-キーを使用して適切な値にします。

または、

モニタ タイプを割り当てるには、ポートを強調表示し、+または-キーを使用して、特定のモニタに対応する値にします。

4. **Enter**キーを押して設定を保存し、メニューを終了します。

または、

F10キーを押してデフォルト設定を復元します。

または、

Escキーを押して、設定を保存せずにメニューを終了します。

カスケード接続システムの切り替え

キーボード/モニタ/マウス スイッチ ボックスをセカンダリ ユニットの介してプライマリ ユニットの接続されているコンピュータに切り替えるには、以下の手順に従ってください。

1. **Print Scrn**キーを押します。モニタにOSDの[Selection]ウィンドウが表示されます。
2. スレーブ ユニットが接続されているポート番号、ダッシュ、目的のコンピュータが接続されている (セカンダリ ユニットの) ポート番号の順に続けて入力します。たとえば、プライマリ ユニットのポート1に接続されているセカンダリ ユニットのポート3に接続されているコンピュータに切り替えるには、**Print Scrn**、**1**、**-**、**3**キーの順に押していきます。
3. コンピュータ/セカンダリ ユニットがウィンドウに名前で示されている場合は、割り当てられているコンピュータ名を入力します。選択したプライマリ ポートにセカンダリ ユニットが接続されていない場合は、2番目の番号が入力された時点でコマンドがキャンセルされます。
4. **Enter**キーを押します。

規定に関するご注意

ご使用になっている装置にVCCIマークが付いていましたら、次の説明文をお読みください。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。

取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

VCCIマークが付いていない場合には、次の点にご注意ください。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスA情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

規定準拠識別番号

規定に準拠していることの証明と識別のために、ご使用の製品には、コンパック固有のシリーズ番号が割り当てられています。シリーズ番号は、必要な認可マークおよび情報とともに、製品銘板ラベルに印刷されています。この製品の準拠情報を請求する場合は、必ず、このシリーズ番号を参照してください。このシリーズ番号を、製品の製品名またはモデル番号と混同しないでください。この製品のコンパックシリーズ番号は、次の通りです。

- 2ポート-EO1002
- 4ポート-EO1004A
- 8ポート-EO1004B
- デュアル コンソール 8ポート-EO1004C

各国別勧告

以下に日本以外の国や地域での規定を掲載します。

Federal Communications Commission Notice

Part 15 of the Federal Communications Commission (FCC) Rules and Regulations has established radio frequency (RF) emission limits to provide an interference-free radio frequency spectrum. Many electronic devices, including computers, generate RF energy incidental to their intended function and are, therefore, covered by these rules. These rules place computers and related peripheral devices into two classes, A and B, depending upon their intended installation. Class A devices are those that may reasonably be expected to be installed in a business or commercial environment. Class B devices are those that may reasonably be expected to be installed in a residential environment (for example, personal computers). The FCC requires devices in both classes to bear a label indicating the interference potential of the device as well as additional operating instructions for the user.

The rating label on the device shows the classification (A or B) of the equipment. Class B devices have an FCC logo or FCC ID on the label. Class A devices do not have an FCC logo or FCC ID on the label. After the class of the device is determined, refer to the corresponding statement in the following sections.

Class A Equipment

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class A digital device, pursuant to Part 15 of the FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference when the equipment is operated in a commercial environment. This equipment generates, uses, and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, may cause harmful interference to radio communications. Operation of this equipment in a residential area is likely to cause harmful interference, in which case the user will be required to correct the interference at personal expense.

Class B Equipment

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to Part 15 of the FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses, and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna
- Increase the separation between the equipment and receiver
- Connect the equipment into an outlet on a circuit that is different from that to which the receiver is connected
- Consult the dealer or an experienced radio or television technician for help

Declaration of Conformity for Products Marked with the FCC Logo, United States Only

This device complies with Part 15 of the FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions: (1) this device may not cause harmful interference, and (2) this device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

For questions regarding your product, contact us by mail or telephone:

- Compaq Computer Corporation
P. O. Box 692000, Mail Stop 530113
Houston, Texas 77269-2000
- 1-800-652-6672 (1-800-OK COMPAQ) (For continuous quality improvement, calls may be recorded or monitored.)

For questions regarding this FCC declaration, contact us by mail or telephone:

- Compaq Computer Corporation
P. O. Box 692000, Mail Stop 510101
Houston, Texas 77269-2000
- 1-281-514-3333

To identify this product, refer to the part, series, or model number found on the product.

Modifications

The FCC requires the user to be notified that any changes or modifications made to this device that are not expressly approved by Compaq Computer Corporation may void the user's authority to operate the equipment.

Cables

Connections to this device must be made with shielded cables with metallic RFI/EMI connector hoods in order to maintain compliance with FCC Rules and Regulations.

Canadian Notice (Avis Canadien)

Class A Equipment

This Class A digital apparatus meets all requirements of the Canadian Interference-Causing Equipment Regulations.

Cet appareil numérique de la classe A respecte toutes les exigences du Règlement sur le matériel brouilleur du Canada.

Class B Equipment

This Class B digital apparatus meets all requirements of the Canadian Interference-Causing Equipment Regulations.

Cet appareil numérique de la classe B respecte toutes les exigences du Règlement sur le matériel brouilleur du Canada.

European Union Notice

Products with the CE Marking comply with both the EMC Directive (89/336/EEC) and the Low Voltage Directive (73/23/EEC) issued by the Commission of the European Community.

Compliance with these directives implies conformity to the following European Norms (the equivalent international standards are in parentheses):

- EN55022 (CISPR 22) – Electromagnetic Interference
- EN55024 (IEC61000-4-2, 3, 4, 5, 6, 8, 11) – Electromagnetic Immunity
- EN61000-3-2 (IEC61000-3-2) – Power Line Harmonics
- EN61000-3-3 (IEC61000-3-3) – Power Line Flicker
- EN60950 (IEC950) – Product Safety

Taiwanese Notice

警告使用者：

這是甲類的資訊產品，在居住的環境中使用時，可能會造成射頻干擾，在這種情況下，使用者會被要求採取某些適當的對策。

静電気対策

システムをセットアップしたり、部品を取り扱う場合には、システムの損傷を防止するために守らなければならないことがあるので注意してください。人間の指など、導電体からの静電気放電によって、システム ボードなどの静電気に弱いデバイスが損傷して、耐用年数が短くなる場合があります。

静電気による損傷を防止するには、以下のことを守ってください。

- 運搬や保管の際は、静電気防止用のケースに入れ、手で直接触れることは避けます。
- 静電気に弱い部品は、静電気防止措置のなされている作業台に置くまでは、専用のケースにいれたままにしておきます。
- 部品をケースから取り出す前に、まずケースごと、アースされている面に置きます。
- ピン、リード線、回路には触れないようにします。
- 静電気に弱い部品に触れなければならないときには、つねに自分の身体に対して適切なアースを行います。

アースの方法

アースにはいくつかの方法があります。静電気に弱い部品を取り扱うときは、以下の方法でアースを行ってください。

- すでにアースされているコンピュータ本体にアースバンドをつなぎます。アースバンドは柔軟な帯状のもので、アースコードは、少なくとも $1M\pm\pm 10\%$ の抵抗のものを使用します。アースを正しく行うために、アースバンドを肌に密着させてください。
- 立って作業をする場合、かかとやつま先にアースバンドをつけます。導電性または静電気拡散性の床の場合、両足にアースバンドをつけます。
- 作業工具は導電性のものを使用します。
- 折りたたみ式の静電気防止マットがついた、携帯式の作業用具もあります。

上記のような、適切にアースを行うための器具がないときは、コンパックのサービス窓口にお問い合わせください。

注: 静電気について詳しくは、コンパックのサービス窓口にお問い合わせください。

電源コードについて

付属の電源コードは、電気用品取締法に適合しており、日本国内でご使用いただけます。また、電圧選択スイッチを切り替えることで100～120V（日本国内）と220～240Vの定格入力電圧で動作します。

国外で使用する場合は、その国の規格に適合する電源コードをご使用ください。詳しくは、コンパック製品販売店またはコンパックのサービス窓口にお問い合わせください。

一般的な条件

以下の条件は、すべての国で適用されます。

- 電源コードの長さは、1.8m以上で3.7m以内でなければなりません。
- 電源コード セット（プラグ、コード、およびカブラ）は、ワークステーションを使用する国の規格に適合したものでなければなりません。
- 電源コード セット（プラグ、コード、およびカブラ）は、最小許容電源10A、公称定格電圧125Vまたは250V（ご使用になる国によって異なります）の交流用のものでなければなりません。
- カブラ（壁用のプラグではなく、本体と接続するコネクタの部分）は、EN 60 320/IEC 320 規格のインレット（標準シートC13）に適合するものでなければなりません。

国別必要条件

表C-1: 国別の電源コードの仕様

国名	承認機関	注
オーストラリア	EANSW	1
オーストリア	OVE	1
ベルギー	CEBC	1
カナダ	CSA	2
デンマーク	DEMKO	1
フィンランド	SETI	1
フランス	UTE	1
ドイツ	VDE	1
イタリア	IMQ	1
日本	METI	3
ノルウェー	NEMKO	1
スウェーデン	SEMKO	1
スイス	SEV	1
イギリス	BSI	1
アメリカ	UL	2

- コードは 1.0mm²、<HAR>タイプの HO5VV-F、3 線コードでなければなりません。電源コードセット（プラグ、コード、およびカブラ）は、それを使用する国の承認機関による承認マークが付いているものでなければなりません。
- コードは、SVT タイプまたはその同等品で、No.18 AWG、3 線コードでなければなりません。プラグは NEMA 5-15P（15A、125VAC）の構成のアース型でなければなりません。
- 電源コードセット（カブラ、コード、およびプラグ）は、▽マークと日本の電気用品取締法による登録番号が付いていなければなりません。また、定格電流許容値は、7A 以上でなければなりません。コードは VCT または VCTF で 1.0mm² の 3 線コードでなければなりません。プラグは、JIS C8303（7A、125VAC）の構成の 2 極のアース型でなければなりません。

表D-1: Compaqコンソール スイッチ ボックス2ポートの仕様

寸法	
高さ	4.34cm
奥行	17.8cm
幅	25.4cm
重量	1.47kg
入力電源要件	
定格電圧	100 ~ 240VAC
定格周波数	50 ~ 60Hz
定格入力電流	.5 ~ .25A
温度範囲	
動作時の最大周囲温度	10° ~ 40°C
保管および搬送時の周囲温度	-40° ~ 85°C
スイッチ ボックスの最大ラック内温度	50°C

続く

表D-1: Compaqコンソール スイッチ ボックス2ポートの仕様 (続き)

寸法	
相対湿度 (結露なし)	
動作時	20% ~ 80%
非動作時	5% ~ 90%
サポートされているビデオ モード	VGA、SVGA、XGA

表D-2: Compaqコンソール スイッチ ボックス4ポート、8ポート、およびデュアル コンソール8ポートの仕様

寸法	
高さ	4.5cm
奥行	20.3cm
幅	43.2cm
重量	
4ポート	2.38kg
8ポート	2.38kg
デュアル コンソール8ポート	2.59kg
入力電源要件	
定格電圧	
4ポート、8ポート、 デュアル コンソール8ポートAC	100 ~ 240VAC
定格周波数	
4ポート、8ポート、 デュアル コンソール8ポートAC	50 ~ 60Hz
定格入力電流	
4ポート、8ポート	1 ~ .5A
デュアル コンソール8ポート	120mA

続く

**表D-2: Compaqコンソール スイッチ ボックス4ポート、
8ポート、およびデュアル コンソール8ポートの仕様 （ 続き ）**

寸法	
温度範囲	
動作時の最大周囲温度	10° ~ 50°C
保管および搬送時の周囲温度	-40° ~ 85°C
スイッチ ボックスの最大ラック内温度	50°C
相対湿度（結露なし）	
動作時	20% ~ 80%
非動作時	5% ~ 90%
サポートされているビデオ モード	VGA、SVGA、XGA

トラブルシューティング

表E-1: ビデオのトラブルシューティング



症状	考えられる原因	推奨する解決策
すべてのコンピュータでビデオが表示されない。	ビデオの接続がゆるくなっている。 ビデオ ケーブルが不良 スイッチまたはモニタに電源が入っていない。	ビデオ ケーブルを再接続します。 ビデオ ケーブルを交換します。 電源スイッチをチェックします。 電源ケーブルを再接続します。 ACコンセントの電源をチェックします。
1台のコンピュータでビデオが表示されない。	ビデオ ケーブルの問題	ゆるんでいるビデオ ケーブルをしっかりと接続します。 ビデオ ケーブルを交換します。 ポートに接続されているコンピュータの電源を入れます。

続く

表E-1: ビデオのトラブルシューティング (続き)






症状	考えられる原因	推奨する解決策
OSDの色またはセットアップが不適合	[Names]、[Flag]、または[Device]ダイアログ ボックスの設定が正しくない。	これらのメニューの設定が正しく定義されているか確認します (2ポートについては、OSDメニューもチェックします)。 [Commands]画面で[Reset]をクリックします (2ポート以外の全モデル)。 または、 必要ならば、 F10+Enter キーを押して、設定をデフォルトにリセットします (2ポート コンソールスイッチ ボックスのみ)。

表E-2: ステータス シンボルのトラブルシューティング

症状	考えられる原因	推奨する解決策
<p>コンピュータ番号または  も  名前の横にも表示されない (2ポート 以外の全モデル)。 コンピュータ番号または 名前の横に+が表示され ない (2ポートのみ)。</p>	<p>キーボード信号が通じて いない。</p>	<p>コンピュータとコンソ ル スイッチの間のゆるく なっているキーボード ケー ブルをしっかりと接続し ます。</p> <p>または、 コンソール スイッチのコ ンピュータ ポートで、キー ボード ケーブルを抜き取っ て、接続しなおします (ケー ブルを抜き取ると、コン ピュータの電源を入れな おさなければならない場 合があります。したがっ てこれらのテストは、メ ンテナンス時間をスケ ジュールできる場合にの み行ってください)。</p> <p>次に、コンソール スイッ チで Esc+Print Scrn キー を押します。</p>

続く

表E-2: ステータス シンボルのトラブルシューティング (続き)

症状	考えられる原因	推奨する解決策
<p>カスケード接続ポート  が表示される (2ポート以外の全モデル)。</p>	<p>キーボードの接続がゆるんでいる。</p>	<p>コンソール スイッチのコンピュータ ポートで、キーボード ケーブルを抜き取り、接続しなおします (ケーブルを抜き取ると、コンピュータの電源を入れなおさなければならない場合があります。したがってこれらのテストは、メンテナンス時間をスケジュールできる場合にのみ行ってください)。</p> <p>キーボード ケーブルを交換します。</p>
<p>コンピュータ番号または名前横に、  が表示されるはずなのに  が表示される (2ポート以外の全モデル)。</p>	<p>他のスイッチからの相互接続ケーブル (m-m) が、誤ってポートに接続されている。</p>	<p>コンソール スイッチを切り離して、そのポートにコンピュータを接続します。</p>
<p> が表示されるはずなのに、プライマリ コンピュータで  が表示される (2ポート以外の全モデル)。</p>	<p>プライマリ コンソール スイッチの [Device] ダイアログ ボックスの設定が正しくない。</p>	<p>セカンダリ コンソール スイッチに対して、正しいポート数 (4または8) が選択されているか確認します。</p> <p>セカンダリ コンソール スイッチに接続されていない場合は、すべてのポート設定がDefaultになっているか確認します。</p>

表E-3: キーボードのトラブルシューティング

症状	考えられる原因	推奨する解決策
キーボードが動作していない。	OSDの遅延時間が有効になっている。	<p>次の手順で遅延時間をオフにします。</p> <p>2ポート以外の全モデル:Print Scrn + Alt + S + Alt + Mキーを押します。 [Delay Time]に0秒と入力します。</p> <p>2ポート スイッチ ボックスのみ:Print Scrn + F2キーを押します。[OSD]を選択します。 [Delay Time]に0秒と入力します。</p>
1台のコンピュータでキーボードが動作していない。	キーボードは動作しているが、その後動作を停止した。	<p>コンピュータとコンソールスイッチの間のゆるんでいるキーボード ケーブルをしっかりと接続します。</p> <p>キーボード ケーブルを交換します。</p> <p>最大ケーブル長をチェックします。</p> <p>コンソール スイッチの背面パネルのResetボタンを押します。</p> <p>コンソール ケーブルの延長の最大長をチェックします。</p>

続く

表E-3: キーボードのトラブルシューティング (続き)

症状	考えられる原因	推奨する解決策
	キーボードは一度も動作していない。	<p>ケーブルがクロス接続でないかチェックします。</p> <p>キーボード ケーブルを交換します。</p> <p>コンソール スイッチのコンピュータ ポートで、キーボード ケーブルを抜き取り、接続しなおします (ケーブルを抜き取ると、コンピュータの電源を入れなおさなければならない場合があります。したがってこれらのテストは、メンテナンス時間をスケジュールできる場合にのみ行ってください)。</p> <p>最大ケーブル長をチェックします。</p> <p>コンソール ケーブルの延長の最大長をチェックします。</p> <p>コンソールのキーボードを交換します。</p>

続く

表E-3: キーボードのトラブルシューティング (続き)

症状	考えられる原因	推奨する解決策
すべてのコンピュータで キーボードが動作してい ない。	キーボード信号はすべて のコンピュータで動作し ていたが、その後動作を 停止した。	<p>コンピュータとスイッチ の間のゆるんでいるキー ボード ケーブルをしま かりと接続します。</p> <p>コンソール ケーブルの延 長の最大長をチェックし ます。</p> <p>コンソールのキーボード を交換します。</p> <p>コンソール スイッチの背 面パネルの Reset ボタン を押します。</p>
	キーボード信号は一度も 動作していない。	<p>キーボードのコンソール ケーブルをチェックし ます。</p> <p>コンソール ケーブルの延 長の最大長をチェックし ます。</p> <p>コンソールのキーボード を交換します。</p> <p>コンソール スイッチの背 面パネルの Reset ボタン を押します。</p> <p>ゆるんでいるコンピュータ のキーボード ケーブルを しまかりと接続します。</p> <p>コンピュータとコンソー ル スイッチ間のケーブルの 最大長をチェックします。</p>

表E-4: マウスのトラブルシューティング

症状	考えられる原因	推奨する解決策
すべてのコンピュータで、起動時にマウス エラーが発生	マウス ケーブルの接続がゆるくなっている。	ゆるんでいるマウス ケーブルをしっかりと接続します。 クロス接続でないかチェックします。
	互換性のないマウス、またはマウスの不良	PS/2またはマウス ポートに対応したマウスに交換します。
1台のコンピュータで、起動時にマウス エラーが発生	マウス ケーブルの接続がゆるくなっている。	ゆるんでいるマウス ケーブルをしっかりと接続します。
	マウス ケーブルの不良	マウス ケーブルを交換します。
	コンピュータのシリアルポートを使用	PS/2-シリアル プロトコルコンバータをインストールします。
マウスが不規則な動作を表示	コンピュータはマウスを中間状態にしていた。	OSDまたはResetコンソール スイッチでマウスをリセットします。
マウス ポインタが画面上で動かない。	マウスが初期化されていない。	OSDまたはResetコンソール スイッチでマウスをリセットします。

表E-5: スイッチのトラブルシューティング

症状	考えられる原因	推奨する解決策
ユニットが1つのシステムから次のシステムに勝手に切り替える。	スキャン モードが起動されている。	任意のキーを押すか、マウスを移動して、スキャンを停止します。
キーボードまたはマウスの入力、2台以上のコンピュータに表示される。	ブロードキャスト モードが起動されている。	OSDを使用してブロードキャスト モードを終了します。
OSDメニューでブロードキャスト機能がグレー表示されている。	他のユーザ コンソールで使用されている。	他のユーザ コンソールに、OSDメニューでブロードキャスト機能を非アクティブにするよう要求します。

表E-6: ファームウェア アップデートのトラブルシューティング

症状	考えられる原因	推奨する解決策
ファームウェアがダウンロードされない。	ケーブルに問題がある。	ゆるんでいるケーブルをしっかりと接続します。 シリアル ケーブルを交換します。 シリアル ケーブルが、コンピュータのCOMポートと、コンソール スイッチのシリアル ポートに接続されているか確認します。
ファイル名をタイプした後で、File Not Found または Can't Open メッセージを受信	ファイル名またはパスが正しくない。	ファイル名を正しくタイプしたか確認します。 ファイルへのパスが正しいか確認します。 ファイル拡張子が正しいかチェックします(.bin)。

続く

表E-6: ファームウェア アップデートのトラブルシューティング (続き)

症状	考えられる原因	推奨する解決策
番号をタイプした後で、Invalid Port Numberメッセージを受信	COMポートが正しくない。	COMポート番号が、4以下の数値エントリになっているかチェックします。
ファームウェアのアップデート時に、ダウンロードがタイムアウトした。	ポートにアクセスできない。	正しいポートが選択されたか確認します。 別のプログラムが同じポートを使用している場合は、そのプログラムを終了します。 シリアル ケーブルがインストールされていない場合、または不良の場合は、新しいケーブルをインストールします。

ファームウェアのアップデート

コンソール スイッチのファームウェアはアップデートできます。コンソール スイッチのアプリケーション コードはFLASH ROMの中にあるため、簡単にアップデートすることができます。ポート通信の設定は自動的に行われ、接続されたコンピュータから直接ダウンロードすることができます。

ファームウェアをアップデートするには、次が必要です。

- MS-DOS、Microsoft Windows 3.1、またはWindows 95/98/NTを実行中のコンピュータ
- コンピュータ上の使用可能なシリアル通信ポート
- スイッチとコンピュータの間を接続する標準シリアル ケーブル (D-Sub9ピン)
- ファームウェアのアップデート

ファームウェアをアップデートするには、以下の手順に従ってください。

1. 標準シリアル ケーブルを、コンピュータのシリアル ジャックと、スイッチの背面パネルのシリアル ジャックに接続します。
2. **Print Scrn**キーを押して、OSDメニューを開きます。
3. プロンプト入力モードを使用する場合は、手順4～6に従います。シングル エントリ モードを使用する場合は、手順7に進みます。

プロンプト入力

4. ファイルが保存されているドライブがCの場合、DOSプロンプトで次を入力します。

C:¥Update.exe

次に、**Enter**キーを押します。

5. プロンプトで、ファイル名を入力します。ファイル名は.bin拡張子を付けます。**Enter**キーを押します。
6. プロンプトで、コンソール スイッチが接続されているコンピュータのシリアル ポート番号を入力します。**Enter**キーを押します。

データが正しく入力された場合は、コンピュータにコンソール スイッチのアップデートが進行中であることを通知するメッセージが表示されます。手順8に進みます。

シングル エントリ

7. ファイルが保存されているドライブがCの場合は、DOSプロンプトで次を入力します。

C:¥UPDATE.EXE ファイル名 ポート番号

次に、**Enter**キーを押します。

データが正しく入力された場合は、アップデートが進行中であることを通知するメッセージがコンピュータに表示されます。

8. ファームウェアがアップデートされた後は、次のメッセージが表示されます。

100% Complete. Download completed successfully. Thank you for using COMPAQ products.

アップデートの完了後、スイッチが自動的に再起動されます。

注: アップデートが成功しなかった場合は（たとえば停電によって）、手順を繰り返してください。

索引

2

2ポート ユニット、0Uインス
トール 2-2

A

[Advanced Menus]、簡易
OSD 5-3

B

Broadcast
ボタン 4-7
Broadcast Active、機能 4-8
[Broadcast]画面 4-27

C

Cables A-4
Canadian Notice (Avis
Canadien) A-4
Class A Equipment A-2、A-4
Class B Equipment A-3、A-5
[Commands]
画面 4-5、4-8
Commands
ボタン 4-5
Compaq コンソール スイッチ
ボックス
キットの内容 2-1
機能 1-2

cooperativeモード
設定 4-7

D

Defaultsボタン 4-12
[Device Modify]画面 4-13
[Devices]画面 4-11
Devices
ボタン 4-8

E

European Union Notice A-5

F

Federal Communications
Commission Notice A-2
Flagボタン 4-7

M

[Main]画面 4-5
各機能 4-5
Menuボタン 4-7
Modifications A-4
Modifyボタン 4-12

N

Names
ボタン 4-5、4-8
[Names]画面 4-15

No Device 4-13
NVRAM 1-2、3-6、3-7

O

OSD

[Main]画面 4-5
アクセス、セカンダリ、
スイッチ 4-30
アクティブにする 4-3
画面、規則 4-3
キーボード、規則 4-3
機能 4-1
選択画面、開く 4-3
ナビゲーション 4-2
マウスの規則 4-2

P

Port

ボタン 4-5
preemptiveモード
設定 4-7

R

[Reset]
コマンド 4-11
Reset
ボタン 4-9
Resetボタン 3-7

S

Scan
ボタン 4-7
Scan Enabled、機能 4-8
[Scan]画面 4-18
Securityボタン 4-7
[Selection]画面
アクセスする 5-2
Setup
画面 4-5
ボタン 4-5

Snapshotボタン 4-9
Standard 4-13

T

Taiwanese Notice A-5

V

[Version]
画面 4-10
Version
ボタン 4-9

あ

アースの方法 B-2

い

インストール
2ポート、0U 2-2
4ポート、8ポート、サイド
マウント0U 2-5
チェックリスト 2-1
ハードウェア 2-1

お

奥行
2ポート D-1
4ポート、8ポート D-2
オン スクリーン ディスプレイ
(OSD) 4-1
温度範囲
2ポート D-1
4ポート、8ポート D-3
オンライン ヘルプを開く 4-3

か

カスケード接続
システムに電源が入った
状態 3-9

カスケード接続コンフィギュレーション 3-8
図 3-8
カスケード接続システムの切り替え 5-21
各国別勧告 A-2
画面
規則、OSD 4-3
キャプチャ 5-1
キャプチャ、実行 4-32
タイプ、使用、デフォルト 4-12
変更 4-12
ロックする 5-15
簡易OSD
起動 5-1
終了する 5-4

き

キーボード
規則、OSD 4-3
設定、記録 「Snapshot ボタン」を参照
同時制御を設定
「Broadcast」を参照
リセット 4-11、5-19
ロックする 4-25、5-15
キット、Compaq コンソール
スイッチ ボックス、内容 2-1
規定準拠識別番号 A-1
規定に関するご注意 A-1
機能、Compaq コンソール
スイッチ ボックス 1-2

け

警告
電源コードのアース機能は無効にしない 3-5
ケージ ナット、取り付け、ラック背面 2-10

ケーブル
情報 3-1
接続の順序 3-3
長さ、品質への影響 3-1
ロック、切り離し 3-2
ケーブル ロック メカニズムを外す 3-2
ケーブル ロックを外す 3-2

こ

コンパックのWebサイト xii
コンピュータ
起動動作 3-6
切り替え 4-31
削除する、スキャン リストから 5-13
スキャン 5-12
接続、追加 3-7
選択 5-4
同時制御 4-8
名前を割り当て 4-8
名前を割り当てる 5-6
コンピュータ間の切り替え 4-31
コンフィギュレーション 1-4
カスケード、図 3-8
カスケード接続 3-8
その他 3-7

さ

サーバ アクセス、セキュリティ
設定 5-14
再起動、自動 3-7

し

システムに電源が入った状態で
カスケード接続を行う 3-9
自動再起動 3-7
重量
2ポート D-1

4ポート、8ポート D-2

障害、通信 4-11

シリーズ番号 A-1

す

スイッチ

起動動作 3-6

セカンダリ 4-11

プライマリ 4-11

ユニットのリセット 1-2

ラックの中にスライドさせ
て押し込む 2-10

スキャン パターン、設定する
4-21、5-12

スキャン モード、キャンセルする
5-12

スクリーン

セーバ、オフにする 5-17

セーバ、設定 4-7

ステータス フラグ 3-6

属性の変更 5-10

配置する 4-23

ステータス ポート、記号（簡易
OSD） 5-3

せ

静電気対策 B-1

セカンダリ スイッチ 4-11

割り当て、4ポート、
システム 4-14

割り当て、8ポート、
システム 4-14

接続、電源が入った状態 3-7
設定

デフォルトに戻す 4-9

そ

装置の記号 ix

その他のコンフィギュレーション
3-7

た

高さ

2ポート D-1

4ポート、8ポート D-2

他言語選択 4-1

ち

遅延時間

設定 4-7

注意

モニタが損傷する 4-26

て

デバイス

タイプ、割り当て 4-11

変更する 4-12

補助、情報を表示 4-10

デフォルト設定 4-9

デュアル コンソール、コンフィ
ギュレーション、図 1-6

電源

スイッチ 3-6

停電 3-7

要件 D-1、D-2

電源が入った状態での接続 3-7

電源を入れる、手順 3-6

と

取り付け

ケージ ナット、ラック背面
2-10

な

名前

ソート、アルファベット順
4-5

リストから削除 4-13

割り当て、コンピュータ
4-8

は

バージョン情報、表示 5-18

ハードウェア

インストール 2-1

設定、保存 5-19

パスワード 1-2

設定 4-7

変更する 4-25

幅

2ポート D-1

4ポート、8ポート D-2

ひ

左マウス ボタン 4-2

ビデオ

サポート、モード、4ポート、

8ポート D-3

ポートからポートへ

切り替え 4-8

モード、サポート、2ポート

D-2

表記上の規則 xii

表示順序

設定 4-7

標準IUインストール 2-11

ふ

ファームウェア

アップデート 1-3、F-1

バージョン情報を表示 4-9

プライマリ コンソール スイッ

チ 4-11

フラグ表示、カスタマイズ 4-7

ブロードキャスト

オフにする 4-30

カスケード接続コンフィ

ギュレーション 4-29

プログラマブル スキャン 1-2

へ

ヘルプ、開く、オンライン 4-3

ほ

ポート

4 Port 4-14

割り当てる、セカンダリ

スイッチ 4-14

8 Port 4-14

割り当てる、セカンダリ

スイッチ 4-14

設定 4-8、4-12

番号、ソート 4-5

リストから削除 4-13

本文中の記号 xi

ま

マウス

規則、OSD 4-2

設定、記録「Snapshot

ボタン」を参照

同時制御を設定

「Broadcast」を参照

リセット 4-11、5-19

マウス ボタン

左 4-2

右 4-2

み

右マウス ボタン 4-2

め

メニュー属性、変更 5-7

メニューの概要 4-4

も

モニタ

- 設定を確立 4-8
- ブランクにする 4-26、5-17
- ロックする 4-25

ゆ

ユニット

- リセット スイッチ 1-2

ら

- ラック、標準IUインストール
2-11

り

リセット

- スイッチ 1-2

れ

レール

- 固定する 2-10
- スライド、スイッチ ボック
スに取り付ける 2-9